

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(4月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2026年3月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2026年3月) 3
- ◆ドイツ工作機械主要統計(2026年第1四半期) 6

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：PMI 54% (5月) 10
- ◆中国製造業 PMI 50.0% (5月) 11
- ◆海外業界動向：中国 11
- ◆米国通商動向：
第122条 13
中国は産業政策の新たな段階に入りつつある 14
MOFCOM 16
更新されたCMCリストの概要と分析 16
- ◆欧州通商政策情報 21

3. 工作機械関連企業動向

- ◆DNソリューションズ、工作機械を超えてソフトウェア・グローバルブランドの拡大を本格化 23
- ◆SMEC、1四半期の売上292億
半導体装置の受注324億を次々に確保 24
- ◆Hurco、2026会計年度第2四半期決算を発表 25
- ◆シーメンス、ルーマニアにAI活用デジタル工場
配電機器の生産強化 27
- ◆シェフラーと米スパイアが宇宙分野で協業合意
2030年末までに欧州独自の宇宙インフラ実現へ 28

4. 展示会情報

- ◆第35回BI-MU、スマートファクトリー、オートメーション、サステナブル製造の最新トレンドにスポットライト 29
- ◆IMTS2026視察団のご案内 30

5. その他

- ◆ユーザー産業情報 31

6. 日工会外需状況 (5月) 50

お知らせ

- 日本企業へのインド合弁・技術提携・市場参入セミナー 52
- IMTEX 2027ジャパンパビリオンの出展募集 54

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計 (4月)

米国製造技術協会(AMT)が発行する「米国製造技術受注レポート」によると、金属加工機械の新規受注額は2026年4月に5億9,360万ドルに達した。これは、予想外に好調だった2026年3月からは12.5%減少したものの、2025年4月からは33.2%増加している。2026年1~4月の製造技術受注累計額は21億9,000万ドルで、2025年比で28.9%増加した。機械の売上高は力強い伸びを示している一方で、販売台数は依然として緩やかなペースで増加している。平均受注額は、2020年のパンデミックによる景気後退終息以降、インフレ率を上回るペースで増加している。2026年最初の数か月間で、平均受注額の伸びと工作機械のインフレ率の差が拡大しており、業界全体で価格上昇圧力は依然として存在するものの、受注額の伸びの大部分は、高度化する機械の受注に自動化機能が追加されたことによるものであることを示している。

製造技術に対する需要の現在の高まりは、金利が低下し始め、政治的不確実性が緩和され、シカゴでIMTS 2024が開催された2024年9月に始まった。それ以来、機械メーカーの稼働率は着実に上昇傾向にある。受注活動が既に活発化し、顧客の嗜好がより高度な機械へと変化している状況において、製造技術業界は、COVID-19不況からの回復後、IMTS 2022開催までの受注ラッシュ時に見られたような納期の長期化を避けるため、生産能力の制約を綿密に監視する必要がある。

(USMTOレポート 2026年6月8日付)

米国工作機械受注統計

(金額単位：千ドル)

年 月	切削型受注		成型型受注			
	台数	金額	台数	金額		
2025年	4月	1,757	439,834	16	5,895	
	5月	1,503	383,969	21	11,218	
	6月	1,595	423,959	16	D	
	7月	1,576	387,377	8	D	
	8月	1,844	534,328	18	4,512	
	9月	1,795	482,386	28	12,428	
	10月	2,011	551,543	18	4,961	
	11月	1,643	432,440	20	3,729	
	12月	2,575	808,626	20	7,938	
	2026年	1月	1,453	424,940	18	11,280
		2月	1,686	480,631	21	5,833
		3月	2,145	669,463	23	8,873
4月		1,852	584,496	20	9,134	
平均		1,803	507,999	19	7,800	

◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別	2026年4月 (P)	2026年3月 (R)	前月比 (%)	前年同月		2026年累計(P)	2025年累計 (R)	前年同期比 (%)
				前年同月	前年同月比 (%)			
全米	593.6	678.3	-12.5	445.7	33.2	2,194.6	1,702.3	28.9
北東部	99.1	116.3	-14.7	61.7	60.8	331.8	275.4	20.5
南東部	53.1	93.7	-43.4	51.7	2.6	259.1	220.7	17.4
北中東部	118.2	109.7	7.7	99.3	19.0	420.6	381.3	10.3
北中西部	89.4	103.5	-13.7	83.6	6.9	356.9	285.7	24.9
南中部	68.6	59.8	14.8	65.8	4.3	213.3	189.6	12.5
西部	165.2	195.2	-15.4	83.6	97.5	612.9	349.6	75.3

P：暫定値 R：改定値
データは成型形含む

◆台湾工作機械輸出入統計(2026年3月)

台湾工作機械輸出入統計(2026年1~3月)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2025.1-3	2026.1-3	前年比(%)	2025.1-3	2026.1-3	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	32,088	49,677	54.8	60,464	69,865	15.5
マシニングセンタ	137,401	122,952	-10.5	17,702	23,646	33.9
旋盤	95,823	91,081	-4.9	14,747	10,485	-28.9
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	35,184	32,964	-6.3	2,101	1,752	-16.6
研削盤	38,186	52,332	37.0	9,531	12,288	28.9
歯切り盤・歯車機械	21,286	22,539	5.9	7,548	4,538	-39.9
切 削 型 合 計	359,968	371,545	3.2	112,093	122,574	9.4

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2026年1-3月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2025.1-3	2026.1-3	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2025.1-3	2026.1-3	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	119,145	127,671	28.0	7.2	1	日 本	60,184	82,862	56.5	37.7
2	米 国	77,462	70,528	15.4	-9.0	2	中 国	25,874	35,136	24.0	35.8
3	イ ン ド	32,688	32,888	7.2	0.6	3	ド イ ツ	18,613	6,215	4.2	-66.6
4	ベ ト ナ ム	15,678	32,737	7.2	108.8	4	ス イ ス	5,918	6,040	4.1	2.1
5	ト ル コ	37,175	21,291	4.7	-42.7	5	韓 国	7,448	4,751	3.2	-36.2
6	タ イ	23,510	20,450	4.5	-13.0	6	タ イ	3,476	3,376	2.3	-2.9
7	ド イ ツ	6,765	13,145	2.9	94.3	7	オーストリア	553	1,441	1.0	160.6
8	マレーシア	8,483	11,160	2.4	31.6	8	イ タ リ ア	2,662	1,323	0.9	-50.3
9	オ ラ ン ダ	8,883	11,146	2.4	25.5	9	台 湾	1,101	1,256	0.9	14.1
10	日 本	12,613	9,824	2.2	-22.1	10	米 国	3,954	1,040	0.7	-73.7
11	イ タ リ ア	7,053	9,075	2.0	28.7		そ の 他	6,582	3,155	2.2	-52.1
12	韓 国	5,609	7,720	1.7	37.6						
13	オーストラリア	5,560	6,618	1.4	19.0						
14	インドネシア	8,126	6,580	1.4	-19.0						
15	ベルギー	4,561	6,334	1.4	38.9						
16	英 国	8,574	6,260	1.4	-27.0						
17	メキシコ	6,926	4,864	1.1	-29.8						
18	カナダ	5,047	4,810	1.1	-4.7						
19	フランス	3,517	4,493	1.0	27.8						
20	スペイン	2,080	4,368	1.0	110.0						
21	ブラジル	11,433	4,331	0.9	-62.1						
22	イスラエル	1,215	3,711	0.8	205.4						
23	ポーランド	4,812	3,166	0.7	-34.2						
24	南アフリカ	1,599	3,051	0.7	90.8						
25	シンガポール	2,111	2,354	0.5	11.5						
26	ギリシャ	1,673	2,312	0.5	38.2						
27	サウジアラビア	1,003	1,983	0.4	97.7						
28	アラブ首長国	1,787	1,848	0.4	3.4						
29	スウェーデン	1,009	1,757	0.4	74.1						
30	ウクライナ	2,602	1,601	0.4	-38.5						
	そ の 他	22,331	18,545	4.1	-17.0						
	合 計	451,030	456,622	100.0	1.2		合 計	136,365	146,595	100.0	7.5

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2026年3月)

韓国工作機械受注(2026年3月)

○業種別受注(2026.3)

(単位：百万ウォン)

需要業種	2026.2	2026.3	前月比(%)	2025.1-3	2026.1-3	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	280	1,882	572.1	8,580	3,317	-61.3
金属製品	290	849	192.8	1,234	1,139	-7.7
一般機械	22,804	21,291	-6.6	80,703	67,091	-16.9
電気機械	11,511	16,956	47.3	27,350	33,034	20.8
自動車	15,030	22,143	47.3	112,196	100,451	-10.5
造船・輸送用機械	4,311	8,684	101.4	16,827	15,365	-8.7
精密機械	1,575	3,584	127.6	20,139	7,702	-61.8
その他製造業	4,325	7,493	73.2	12,064	15,195	26.0
官公需・学校	38	38	0.0	1,183	76	-93.6
商社・代理店	3,941	27,824	606.0	17,856	37,251	108.6
その他	0	0	-	0	0	-
内 需 合 計	64,105	110,744	72.8	298,132	280,621	-5.9
外 需	160,386	254,626	58.8	486,102	595,286	22.5
総 合 計	224,491	365,370	62.8	784,234	875,907	11.7

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2026.3)

(単位：百万ウォン)

機 種	2026.2	2026.3	前月比(%)	2025.1-3	2026.1-3	前年同期比(%)
N C 小 合 計	222,093	361,640	62.8	764,961	866,774	13.3
NC旋盤	112,754	164,487	45.9	360,790	417,929	15.8
マシニングセンタ	86,329	156,208	80.9	286,542	325,317	13.5
NCフライス盤	0	0	-	1,445	240	-83.4
NC専用機	6,923	20,865	201.4	67,256	77,927	15.9
NC中ぐり盤	10,531	12,177	15.6	25,594	25,743	0.6
NCその他の工作機械	3,588	6,998	95.0	16,512	14,963	-9.4
非 N C 小 合 計	1,382	2,243	62.3	13,660	4,912	-64.0
旋盤	291	735	152.6	4,630	1,524	-67.1
フライス盤	277	672	142.6	4,452	1,176	-73.6
ボール盤	0	38	-	139	38	-72.7
研削盤	667	751	12.6	4,439	1,980	-55.4
専用機	147	47	-68.0	0	194	-
その他の工作機械	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型	223,475	363,883	62.8	778,621	871,686	12.0
金 属 成 形 型	1,016	1,487	46.4	5,613	4,221	-24.8
総 合 計	224,491	365,370	62.8	784,234	875,907	11.7

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械生産&出荷統計(2026年3月)

○生産(2026年3月)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2026.2	2026.3	前月比(%)	2025.1-3	2026.1-3	前年同期比(%)
N C 小 合 計	143,290	173,385	21.0	487,911	466,852	-4.3
NC旋盤	63,547	72,881	14.7	230,061	204,453	-11.1
マシニングセンタ	47,934	61,578	28.5	159,676	157,640	-1.3
NCフライス盤	0	200	-	288	200	-30.6
NC専用機	22,877	24,763	8.2	68,870	70,167	1.9
NC中ぐり盤	614	4,917	700.8	8,274	9,290	12.3
NCその他	6,003	7,361	22.6	13,097	20,451	56.2
非 N C 小 合 計	696	1,677	140.9	6,700	3,881	-42.1
旋盤	0	0	-	611	0	-
フライス盤	375	622	65.9	2,789	2,122	-23.9
ボール盤	0	0	-	907	0	-
研削盤	302	683	126.2	2,003	1,368	-31.7
専用機	19	372	1,858.9	390	391	0.3
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	143,986	175,062	21.6	494,611	470,733	-4.8
金 属 成 形 型 合 計	16,561	14,238	-14.0	49,229	47,708	-3.1
総 合 計	160,547	189,300	17.9	543,840	518,441	-4.7

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2026.3)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2026.2	2026.3	前月比(%)	2025.1-3	2026.1-3	前年同期比(%)
N C 小 合 計	188,045	301,402	60.3	626,548	675,503	7.8
NC旋盤	90,519	143,005	58.0	314,135	324,087	3.2
マシニングセンタ	66,386	122,555	84.6	206,806	255,085	23.3
NCフライス盤	0	200	-	288	200	-30.6
NC専用機	22,877	24,763	8.2	68,960	70,167	1.8
NC中ぐり盤	2,025	5,100	151.9	15,570	9,087	-41.6
NCその他	3,923	4,094	4.4	13,144	12,226	-7.0
非 N C 小 合 計	1,369	2,719	98.6	11,046	6,270	-43.2
旋盤	588	941	60.0	4,535	2,106	-53.6
フライス盤	395	655	65.8	2,925	2,206	-24.6
ボール盤	0	0	-	959	0	-
研削盤	367	751	104.6	2,237	1,567	-30.0
専用機	19	372	1,858.9	390	391	0.3
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	189,414	304,121	60.6	637,594	681,773	6.9
金 属 成 形 型 合 計	836	1,033	23.6	4,168	2,764	-33.7
総 合 計	190,250	305,154	60.4	641,762	684,537	6.7

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別輸出(2026.3) 韓国工作機械輸出統計(2026年3月) (単位：千USドル)

機種別	2026.2	2026.3	前月比(%)	2025.1-3	2026.1-3	前年同期比(%)
N C 小 合 計	113,582	164,796	45.1	388,700	409,912	5.5
NC旋盤	55,892	77,087	37.9	189,175	189,743	0.3
マシニングセンタ	37,877	54,437	43.7	123,635	127,798	3.4
NCフライス盤	1,334	1,256	-5.9	3,727	3,038	-18.5
NC専用機	0	0	-	3	0	-
NC中ぐり盤	1,134	1,316	16.1	9,172	4,554	-50.3
レーザ加工機	11,516	20,318	76.4	46,571	63,797	37.0
NCその他	2,798	4,369	56.1	8,358	9,667	15.7
非 N C 小 合 計	6,649	6,501	-2.2	26,604	19,315	-27.4
旋盤	510	284	-44.3	1,517	1,551	2.3
フライス盤	727	588	-19.0	2,628	2,301	-12.5
ボール盤	110	192	74.8	1,167	650	-44.3
研削盤	1,890	1,307	-30.8	2,108	3,636	72.5
専用機	111	0	-99.8	171	112	-34.9
その他	2,512	3,108	23.7	12,456	7,695	-38.2
金属切削型合計	120,231	171,297	42.5	415,304	429,227	3.4
金属成型型合計	33,642	43,563	29.5	125,950	104,307	-17.2
総 合 計	153,872	214,860	39.6	541,254	533,533	-1.4

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2026.1-3) (単位：千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	154,663	51,568	39,496	100,201	124,429	53,641	34,824
NC旋盤	34,451	12,424	13,276	57,398	86,286	37,492	27,045
マシニングセンタ	50,080	14,348	21,339	27,300	34,812	14,561	7,022
NCフライス盤	1,692	305	407	694	459	0	0
NC専用機	0	0	0	0	0	0	0
NC中ぐり盤	2,111	1,108	1,001	1,104	0	0	0
レーザ加工機	55,260	19,345	312	7,411	338	98	101
NCその他	3,092	281	1,580	4,688	1,486	931	533
非NC小合計	14,252	4,199	4,264	2,326	1,588	585	235
旋盤	1,196	149	473	187	69	69	0
フライス盤	1,348	453	175	802	102	52	0
ボール盤	629	149	11	0	20	0	0
研削盤	2,981	901	1,220	518	88	81	0
専用機	1	0	0	0	111	111	0
その他	5,353	2,279	1,519	674	880	226	235
金属切削型合計	168,915	55,767	43,760	102,527	126,017	54,226	35,059
金属成型型合計	65,527	3,797	42,765	23,384	5,717	296	3,171
総 合 計	234,442	59,564	86,525	125,911	131,734	54,522	38,231

出所：韓国通関局

○機種別輸入(2026.3) 韓国工作機械輸入統計(2026年3月) (単位：千USドル)

機種別	2026.2	2026.3	前月比(%)	2025.1-3	2026.1-3	前年同期比(%)
N C 小 合 計	54,450	51,200	-6.0	139,610	154,849	10.9
NC旋盤	2,485	5,626	126.4	17,605	11,980	-32.0
マシニングセンタ	9,938	13,290	33.7	28,262	34,257	21.2
NCフライス盤	17,767	490	-97.2	309	23,195	7,406.5
NC専用機	13	8	-38.6	1,475	2,325	57.7
NC中ぐり盤	542	1,402	158.9	5,272	4,051	-23.2
レーザ加工機	13,139	16,541	25.9	51,415	47,809	-7.0
NCその他	660	3,941	497.0	1,939	5,310	173.8
非 N C 小 合 計	4,525	5,825	28.7	20,230	16,232	-19.8
旋盤	201	221	9.8	1,286	1,050	-18.3
フライス盤	73	234	220.8	613	1,538	150.7
ボール盤	338	201	-40.7	835	797	-4.5
研削盤	254	652	156.8	4,010	1,474	-63.2
専用機	0	0	-	30	0	-99.3
その他	2,373	2,773	16.8	7,282	7,142	-1.9
金属切削型合計	58,975	57,025	-3.3	159,840	171,081	7.0
金属成型型合計	14,889	9,783	-34.3	42,040	36,527	-13.1
総 合 計	73,864	66,809	-9.6	201,880	207,609	2.8

出所：韓国通関局

○輸入国別(2026.1-3)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	112,480	54,341	4,306	1,064	39,611	9,576	2,521
NC旋盤	10,760	5,578	0	46	1,174	0	0
マシニングセンタ	30,850	23,737	3,048	301	3,103	2,642	350
NCフライス盤	1,115	384	293	9	22,070	0	0
NC専用機	925	707	0	0	1,400	1,400	0
NC中ぐり盤	1,946	1,063	0	0	2,105	4	2,101
レーザ加工機	46,628	16,814	95	153	1,024	62	67
NCその他	2,405	1,398	0	510	2,390	2,367	3
非 N C 小 合 計	10,618	3,342	721	1,305	4,306	2,519	235
旋盤	1,015	314	111	0	35	35	0
フライス盤	175	4	0	1,055	308	223	0
ボール盤	755	136	26	3	39	14	0
研削盤	1,457	380	104	3	12	0	1
専用機	0	0	0	0	0	0	0
その他	4,426	1,674	18	25	2,690	2,213	36
金 属 切 削 型	123,098	57,683	5,027	2,369	43,917	12,095	2,756
金 属 成 形 型	18,425	6,082	736	627	17,449	2,125	9,383
総 合 計	141,522	63,765	5,763	2,996	61,365	14,221	12,139

出所：韓国通関局

◆ドイツ工作機械主要統計(2026年第1四半期)

	金額(百万ユーロ)							前年比(%)		
	2021	2022	2023	2024	2025 r	2025 1Q	2026 1Q	2024	2025 r	2026 1Q
生産合計	12,805	14,116	15,384	14,795	13,759	3,184	2,840	-4	-7	-11
機械合計	8,918	9,745	10,645	10,342	9,508	2,138	1,890	-3	-8	-12
切削型	6,576	7,432	8,330	7,941	7,144	1,599	1,420	-5	-10	-11
成型型	2,341	2,313	2,315	2,401	2,364	539	470	+4	-2	-13
部品・付属品	2,610	2,986	3,192	2,909	2,738	686	630	-9	-6	-8
設置・修理・メンテナンス	1,277	1,386	1,547	1,545	1,513	360	320	-0	-2	-11
受注額	13,580	15,800	14,130	11,380	11,045	2,867	3,300	-19	-3	+15
内需	3,940	4,640	3,970	3,620	3,030	802	945	-9	-16	+18
外需	9,640	11,160	10,160	7,760	8,015	2,065	2,355	-24	+3	+14
生産額(サービス除く)	11,528	12,730	13,837	13,250	12,246	2,824	2,520	-4	-8	-11
輸出	8,013	8,770	9,757	9,412	8,713	2,141	1,925	-4	-7	-10
国内販売	3,515	3,960	4,079	3,838	3,533	682	595	-6	-8	-13
輸入	2,959	3,661	3,741	3,160	3,035	729	671	-16	-4	-8
国内消費	6,474	7,621	7,821	6,998	6,568	1,411	1,265	-11	-6	-10
輸出比率(%)	69.5	68.9	70.5	71.0	71.2	75.8	76.4			
輸入比率(%)	45.7	48.0	47.8	45.2	46.2	51.7	53.0			
従業員数(年平均)	64871	64,264	65,197	65,523	64,513	65,709	60,905	+0.5	-1.5	-7.3
(3月)						66,446	60,590			-8.8
企業数	298	286	277	276	277	276	265	-0.2	+0.3	-4.1
稼働率(年平均)	80.8	87.7	89.6	81.7	75.6	76.8	74.1	-7.9	-6.1	-2.7
(4月)						77.4	73.1			-4.3

出所：出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械生産統計(2025年)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2021	2022	2023	2024	2025	2024/2023	2025/2024	2024	2025
工作機械総合計	12,805.3	14,116.0	15,383.6	14,795.3	13,758.7	-4	-7	100.0	100.0
金属切削型合計	6,456.4	7,188.9	8,036.7	7,713.3	6,880.0	-4	-11	52.1	50.0
レーザー加工機、放電加工機、超音波加工機	816.2	834.5	968.1	887.6	847.5	-8	-5	6.0	6.2
マシニングセンタ	1,734.2	2,162.2	2,319.5	2,071.4	1,996.4	-11	-4	14.0	14.5
トランスファーマシン	410.0	173.9	180.8	285.0	119.5	58	-58	1.9	0.9
旋盤	967.2	1,096.9	1,245.0	1,141.3	995.7	-8	-13	7.7	7.2
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	161.8	171.9	160.4	137.2	142.2	-15	4	0.9	1.0
フライス盤	860.6	946.1	1,085.5	1,041.0	934.9	-4	-10	7.0	6.8
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	820.3	969.5	1,108.3	1,099.1	912.8	-1	-17	7.4	6.6
歯切り盤	440.8	570.3	647.3	741.4	639.7	15	-14	5.0	4.6
金切り盤及び切断機	185.4	204.8	246.8	225.8	185.4	-9	-18	1.5	1.3
その他の工作機械	60.1	58.6	75.0	83.6	105.9	12	27	0.6	0.8
金属成形型合計	2,341.4	2,312.7	2,315.2	2,400.7	2,363.7	4	-2	16.2	17.2
アディティブマニュファクチャリング	120.0	243.0	292.9	227.6	264.2	-22	16	1.5	1.9
工作機械用部品	2,610.5	2,985.6	3,191.8	2,908.8	2,738.2	-9	-6	19.7	19.9
工作機械の設置、修理、メンテナンス	1,276.9	1,385.8	1,547.1	1,544.9	1,512.7	0	-2	10.4	11.0

出所：出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械国別輸出統計(2026年第1四半期)

(金額単位：百万ユーロ)

国	別	2024	2025	2026 1Q	% 25/24	% 26/25	% 2025	% 2026
合	計	7,751.0	7,090.3	1,547.6	-9	-11	100.0	100.0
1.	米 国	1,458.5	1,296.1	344.3	-11	7	18.3	22.2
2.	中 国	1,305.9	1,046.9	183.6	-20	-36	14.8	11.9
3.	イ ン ド	274.6	293.5	90.8	7	12	4.1	5.9
4.	フ ラ ン ス	328.5	271.8	74.6	-17	60	3.8	4.8
5.	ト ル コ	223.9	220.5	63.8	-2	41	3.1	4.1
6.	イ タ リ ア	329.9	466.6	57.7	42	-39	6.6	3.7
7.	ポ ー ラ ン ド	267.4	277.4	57.6	4	-7	3.9	3.7
8.	ス イ ス	266.2	197.3	54.3	-26	22	2.8	3.5
9.	チ ェ コ	216.2	194.9	41.9	-10	-7	2.7	2.7
10.	日 本	149.8	128.7	41.3	-14	43	1.8	2.7
11.	オーストリア	234.3	196.0	41.0	-16	-13	2.8	2.6
12.	オ ラ ン ダ	159.4	203.0	38.7	27	-52	2.9	2.5
13.	ス ペ イ ン	198.4	163.1	36.6	-18	10	2.3	2.4
14.	メ キ シ コ	246.0	228.0	36.1	-7	-47	3.2	2.3
15.	英 国	191.9	167.3	32.4	-13	12	2.4	2.1
16.	ハ ン ガ リ ー	214.2	130.8	26.3	-39	-20	1.8	1.7
17.	韓 国	124.6	91.0	25.2	-27	-11	1.3	1.6
18.	スウエーデン	134.5	160.7	25.1	20	-24	2.3	1.6
19.	ルーマニア	69.3	79.6	24.9	15	36	1.1	1.6
20.	ブラジル	97.1	57.9	16.1	-40	-6	0.8	1.0
21.	カザフスタン	89.1	18.0	15.4	-80	121	0.3	1.0
22.	サウジアラビア	36.1	46.5	14.4	29	-54	0.7	0.9
23.	カナダ	98.8	123.1	14.2	25	-39	1.7	0.9
24.	ベトナム	23.8	16.9	12.7	-29	565	0.2	0.8
25.	ベルギー	91.6	99.0	11.9	8	-32	1.4	0.8
26.	スロバキア	81.1	104.0	11.4	28	-50	1.5	0.7
27.	台湾	45.2	27.6	10.6	-39	13	0.4	0.7
28.	ノルウェー	25.9	42.5	10.4	64	126	0.6	0.7
29.	ポルトガル	52.3	72.1	10.3	38	-49	1.0	0.7
30.	オーストラリア	38.3	29.8	9.6	-22	-12	0.4	0.6

出所：連邦統計局、VDMA、VDW

ドイツ工作機械国別輸入統計(2026年第1四半期)

(金額単位：百万ユーロ)

国 別	2024	2025	2026 1Q	% 25/24	% 26/25	% 2025	% 2026
合 計	2,285.9	2,163.2	458.7	-5	-11	100.0	100.0
1. ス イ ス	635.6	553.4	112.9	-13	-7	25.6	24.6
2. 日 本	280.6	227.8	64.3	-19	35	10.5	14.0
3. 韓 国	138.1	160.4	38.2	16	4	7.4	8.3
4. 中 国	148.0	185.5	36.7	25	-40	8.6	8.0
5. イ タ リ ア	206.3	203.2	34.6	-2	-29	9.4	7.5
6. オーストリア	146.1	121.2	26.8	-17	-15	5.6	5.8
7. チ ェ コ	105.4	93.2	20.9	-12	17	4.3	4.6
8. 台 湾	81.6	66.8	16.9	-18	10	3.1	3.7
9. 米 国	52.7	71.2	15.0	35	-24	3.3	3.3
10. ス ペ イ ン	78.5	86.0	9.5	10	-41	4.0	2.1
11. 英 国	66.7	49.6	9.5	-26	-28	2.3	2.1
12. フ ラ ン ス	37.7	42.3	9.0	12	-18	2.0	2.0
13. ト ル コ	37.1	23.3	8.5	-37	55	1.1	1.9
14. ポーランド	38.2	31.1	8.3	-19	5	1.4	1.8
15. スロバキア	39.9	41.4	8.1	4	-14	1.9	1.8
16. オランダ	24.6	29.6	6.5	20	-33	1.4	1.4
17. ブルガリア	24.0	33.5	6.5	39	-17	1.5	1.4
18. タ イ	15.6	21.5	5.6	38	27	1.0	1.2
19. スウェーデン	11.8	26.8	2.6	127	-11	1.2	0.6
20. スロベニア	8.4	8.8	2.1	6	10	0.4	0.5
21. ハンガリー	7.0	7.9	1.7	14	0	0.4	0.4
22. シンガポール	12.5	10.7	1.6	-14	-7	0.5	0.4
23. オーストラリア	8.4	3.5	1.5	-59	166	0.2	0.3
24. イ ン ド	6.3	6.2	1.2	-3	-6	0.3	0.3
25. デ ン マ ーク	3.6	6.4	1.2	78	-42	0.3	0.3
26. フィンランド	9.6	5.0	1.1	-48	18	0.2	0.2
27. ブ ラ ジ ル	11.7	12.6	1.0	8	-89	0.6	0.2
28. ギ リ シ ャ	1.4	3.0	0.7	112	40	0.1	0.1
29. ルクセンブルク	0.4	1.2	0.5	232	150	0.1	0.1
30. ニューゼーランド	0.3	0.3	0.4	-1	-	0.0	0.1

出所：連邦統計局、VDMA、VDW

ドイツ工作機械機種別輸出統計(2026年第1四半期)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2022	2023	2024	2025 r	2026 1Q	2025/2024	2026/2025	2025	2026
工作機械総合計	8,770.4	9,757.2	9,411.9	8,713.5	1,925.2	-7	-10	100.0	100.0
金属切削型合計	5,693.1	6,313.1	5,925.6	5,398.7	1,201.5	-9	-7	62.0	62.4
特殊加工機	1,195.3	1,269.4	1,085.1	1,076.3	225.5	-1	-8	12.4	11.7
マシニングセンタ	1,691.4	1,917.5	1,668.8	1,653.5	344.2	-1	-19	19.0	17.9
トランスファーマシン	102.4	141.9	135.2	109.0	31.9	-19	-4	1.3	1.7
旋盤	766.8	781.7	799.3	663.8	159.3	-17	29	7.6	8.3
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	172.3	222.3	184.0	212.0	46.0	15	-8	2.4	2.4
フライス盤	311.7	302.6	280.0	264.1	61.7	-6	-12	3.0	3.2
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	759.0	893.7	895.0	686.9	140.0	-23	-14	7.9	7.3
歯切り盤	486.8	547.7	603.1	535.5	134.2	-11	-1	6.1	7.0
金切り盤及び切断機	147.5	168.4	179.2	133.3	32.8	-26	-3	1.5	1.7
その他の工作機械	59.8	67.9	95.8	64.3	25.9	-33	132	0.7	1.3
金属成形型合計	1,288.8	1,511.4	1,558.0	1,418.2	273.1	-9	-29	16.3	14.2
アディティブマニュファクチャリング	212.0	192.9	267.4	273.4	73.0	2	28	3.1	3.8
工作機械用部品	1,576.5	1,739.8	1,661.0	1,623.1	377.6	-2	-8	18.6	19.6

出所：出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械輸入統計(2026年第1四半期)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2022	2023	2024	2025	2026 1 Q	2025/2024	2026/2025	2025	2026
工作機械総合計	3,661.2	3,741.5	3,159.8	3,035.4	670.8	-4	-8	100.0	100.0
金属切削型合計	2,183.1	2,196.2	1,821.7	1,748.6	376.3	-4	-5	57.6	56.1
特殊加工機	581.2	597.5	439.7	463.5	96.7	5	-10	15.3	14.4
マシニングセンタ	414.3	436.9	338.9	310.8	65.0	-8	-15	10.2	9.7
トランスファーマシン	67.3	42.1	50.1	22.3	5.6	-56	94	0.7	0.8
旋盤	546.6	535.8	433.6	428.3	104.6	-1	12	14.1	15.6
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	104.9	78.6	81.1	80.1	11.8	-1	-26	2.6	1.8
フライス盤	74.1	65.1	71.6	63.6	12.7	-11	-23	2.1	1.9
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	290.8	327.1	300.2	298.3	63.4	-1	8	9.8	9.4
歯切り盤	43.5	51.7	46.6	20.5	3.5	-56	-34	0.7	0.5
金切り盤及び切断機	49.3	51.3	49.8	50.1	10.1	1	-20	1.7	1.5
その他の工作機械	11.1	10.1	10.0	11.1	3.0	12	-11	0.4	0.4
金属成型型合計	476.6	509.2	438.3	381.6	76.1	-13	-33	12.6	11.3
アディティブマニュファクチャリング	8.9	16.8	26.0	33.1	6.3	27	15.9	1.1	0.9
工作機械用部品	992.5	1,019.3	873.9	872.2	212.1	0	-2	28.7	31.6

出所：出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

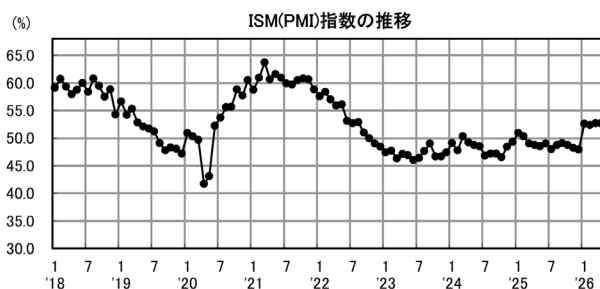
2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 54%（5月）

最新のISM[®]製造業PMI[®]レポートによると、米国のサプライチェーン幹部らは、製造業の経済活動が5月に5ヶ月連続で拡大したと述べている。

このレポートは、サプライマネジメント協会(ISM[®])製造業景況調査委員会の委員長であるスーザン・スペンス氏(MBA)によって本日発表された。

「製造業PMI[®]は5月に54%を記録し、4月より1.3ポイント上昇、2022年5月(55.9%)以来の最高値を記録した。経済全体は19ヶ月連続で拡大を続けている。(製造業PMI[®]が一定期間にわたって47.5%を超えると、一般的に経済全体の拡大を示す。)新規受注指数は、4ヶ月連続で縮小した後、5ヶ月連続で拡大し、56.8%を記録した。これは4月の54.1%と比較して2.7ポイントの上昇であった。5月の生産指数(54.3%)は、4月の53.4%より0.9ポイント上昇した。物価指数は拡大(または「上昇」)領域を維持し、82.1%を記録した。4月の84.6%から2.5ポイントの減少であった。受注残高指数は52.2%を記録し、4月と比較して0.8ポイント上昇した。「4月の51.4%から低下した。雇用指数は48.6%で、4月の46.4%から2.2ポイント上昇した」とスペンス氏は述べている。



スペンス氏はさらに、「5月の米国製造業活動は拡大圏を維持し、前月よりも速いペースで成長した。PMI[®]を構成する5つのサブ指数のうち、新規受注指数は前月よりも成長が加速し、仕入先納入指数は横ばい、生産指数は成長が加速した。雇用指数と在庫指数は縮小圏にとどまりまったが、いずれも改善が見られた。」

5月に成長を報告した16の製造業は、順不同で以下の通りである。印刷・関連支援活動、繊維工場、非金属鉱物製品、紙製品、電気機器・器具・部品、プラスチック・ゴム製品、一次金属、その他製造業、コンピュータ・電子製品、家具・関連製品、機械、輸送機器、石油・石炭製品、化学製品、金属加工製品、食品・飲料・タバコ製品。

ISMが発表した5月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項目	2026年5月指数(%)	2026年4月指数(%)	備考
ISM 指数(PMI)	54.0	52.7	前月比1.3ポイント増。PMIが50%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新規受注	56.8	54.1	前月比2.7ポイント増。拡大の基準は51.9である。14業種が増加を報告した。
生産	54.3	53.4	前月比0.9ポイント増。拡大の基準は、52である。14業種が増加を報告。
雇用	48.6	46.4	前月比2.2ポイント増。9業種が増加を報告した。
入荷遅延	60.6	60.6	前月比0.0ポイント。長期化の基準は、50以上。18業種中14業種が長期化を報告した。
在庫	49.9	49.0	前月比0.9ポイント増。拡大の基準44.5ポイントを上回った。9業種が在庫増を報告した。
顧客在庫	42.7	39.1	前月比3.6ポイント増。2業種が増加を報告した。
仕入れ価格	82.1	84.6	前月比2.5ポイント減。16業種が増加を報告した。
受注残	52.2	51.4	前月比0.8ポイント増。9業種が増加を報告した。
輸出受注	50.6	47.9	前月比2.7ポイント増。5業種が増加を報告した。
原材料輸入	53.0	50.3	前月比2.7ポイント増。8業種が増加を報告した。

※データは季節修正値

(ISM Manufacturing Report on Business 2026年6月1日付)

◆中国製造業 PMI 50.0% (5月)

5月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は50.0%で、前月比0.3ポイント低下し、基準値水準を上回った。

企業規模別に見ると、大企業のPMIは51.1%で、前月比0.9ポイント上昇し、基準値を上回った。一方、中規模企業と小規模企業のPMIはそれぞれ48.6%と48.5%で、前月比1.9ポイント、1.6ポイント低下し、いずれも基準値を下回った。

製造業PMIを構成する5つのサブ指数のうち、生産指数は基準値を上回ったが、新規受注指数、原材料在庫指数、雇用指数、仕入先納期指数はいずれも基準値を下回った。

生産指数は51.2%で、前月比0.3ポイント低下したものの、依然として基準値を上回っており、製造業における生産活動の継続的な拡大を示している。

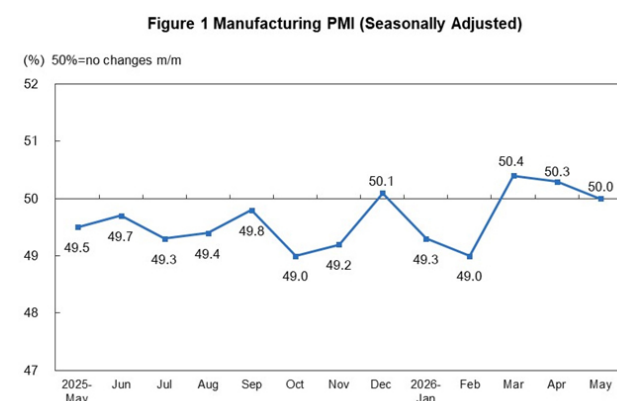
新規受注指数は49.9%で、前月比0.7ポイント低下しており、製造業の市場需要環境の悪化を示している。

原材料在庫指数は48.6%で、前月比0.7ポイント低下しており、製造業における主要原材料の在庫減少を示している。

雇用指数は48.6%で、前月比0.2ポイント低下しており、製造業の雇用環境の悪化を示している。

仕入先納期指数は49.2%で、前月比0.3ポイント低

下しており、製造業における原材料仕入先の納期が前月比で引き続き長期化していることを示している。



(Bureau of Statistics of China 2026年6月1日付)

◆海外業界動向：中国

中国の産業データは輸出の強さとエネルギー産業の勢いを示唆

2026年第1四半期、中国の自動車および工作機械セクターは、国内需要の軟化が見られる中で、輸出実績が最も明るい兆しとして際立っていた。業界関係者にとって、これらの傾向は、輸出能力の高いメーカーやサプライヤーが世界的な需要の恩恵を受ける有利な立場にある一方、国内市場への依存度が高い企業は引き続き逆風に直面する可能性があることを示唆している。投資家は、輸出事業を拡大している企業や、電気自動車(EV)や再生可能エネルギー機器などの成長分野を支援するサプライチェーンパートナーに投資機会を見出すことができる。

自動車生産とEV輸出

中国自動車工業協会(CAAM)によると、2026年第1四半期の自動車生産台数と販売台数はそれぞれ約700万台に達し、いずれも前年同期比で6~7%減となった。これは国内市場の低迷が続いていることを示している。このうち電気自動車(EV)は約42%を占め、生産・販売台数は約300万台に達した。

一方、輸出は好調で、第1四半期の自動車輸出総数は220万台を超え(前年同期比57%増)、EV輸出はほぼ倍増(120%増)した。中国車の主要輸出先は欧州、東南アジア、南米、中東であり、市場浸透の多様化と、従来型モデルとEVモデルの両方に対する世界的な強い需要を反映している。3月の輸出台数は87万5,000台に達し、2025年同月比73%増となりました。これは国内販売の低迷を効果的に相殺し、中国のグローバル輸出国としての地位向上を浮き彫りにしている。

工作機械貿易

中国工作機械工業協会(CMTBA)の報告によると、2026年第1四半期の工作機械産業の輸出入総額は83億8,000万ドルに達し、前年同期比9.2%増となった。輸出は輸入よりも速いペースで伸び、58億4,000万ドル(10.2%増)に達した一方、輸入は6.9%増の25億3,000万ドルであった。同四半期における中国工作機械製品の主要輸出先は、米国、ドイツ、インド、ロシア、ブラジルであり、先進国市場と新興国市場の両方における中国の工作機械産業の力強い浸透を示していた。工作機械の輸入元上位5カ国は、日本、ドイツ、台湾、韓国、スイスであった。

輸入においては、いくつかのカテゴリーで顕著な成長が見られた。CNC制御システムは21%近く増加、計測・検査機器は25%増加、切削工具は17%増加、鋳造機は比較的小規模なベースからの伸びではあるものの50%増と大幅に増加した。金属切削機械は11億5,000万ドルで最大の輸入カテゴリーであり続け、マシニングセンター特殊加工機、研削盤が牽引した。唯一顕著な減少が見られたのは木工機械で、60%減少した。

エネルギー分野：蓄電、風力発電、EV充電インフラ

中国のエネルギー分野は2026年第1四半期も急速な拡大を続けた。この成長には政策支援が大きく貢献しており、政府は再生可能エネルギー開発とエネルギー貯蔵プロジェクトへのインセンティブを拡充し、最新の国家五カ年計画の下で大規模な送電網の近代化を優先的に進めている。新規エネルギー貯蔵設備の設置容量は10.43GW、発電容量は27.05GWhに達し、それぞれ前年比59%増、76%増となった。リチウムイオン電池の生産量も49%増加した。リチウムイオン電池のサプライチェーン生産量は前年比44~45%増となり、生産エコシステム全体に流れる需要規模の大きさを反映している。

風力発電は新たに15.77GWの系統連系容量を追加し、前年比8%増となった。送電・変電設備の輸出は40%を超える成長を維持し、国内の送電網および電力供給への投資はそれぞれ43%増、27%増となり、関連機器および部品への持続的な需要を生み出している。

中国のEV充電インフラも新たな節目を迎え、3月末時点で全国に2,148万基の充電ステーションが設置され、前年比47%増となった。そのうち486万基が公共施設、1,662万基が民間施設であり、この比率は中国におけるEV普及の規模と、現在整備されている住宅用充電インフラの充実度を反映している。

投資プロジェクト

最近発表されたいくつかのプロジェクトは、施設レベルでの資金の流れを示している。山東省のBAIC Foton Automobileは、マニュアル、オートマチック、ハイブリッドトランスミッションの生産ライン購入に6,400万ドルを投資しており、プロジェクトは2026年第4四半期までに完了する予定。上海証券取引所に上場している浙江百達精密製造は、自動鍛造ライン、CNC旋盤、研削盤、マシニングセンタなど、EV部品製造設備の取得に1億5,500万ドルを投じている。同社の新施設は2027年第2四半期までに稼働開始予定。

(AMT ONLINE 2026年6月4日)

◆米国通商動向：第 122 条

下民主党系の州当局者と民間輸入業者は、トランプ大統領による第122条に基づく関税措置を無効とした国際貿易裁判所(CIT)の判決の執行停止を求める司法省の要請を却下するよう、連邦巡回控訴裁判所に要請した。原告側は、政府が回復不能な損害を立証できておらず、控訴審の間、関税が維持されることは輸入業者に多大なコストを課し、公共の利益を損なうと主張している。

この紛争は、トランプ大統領がほとんどの輸入品に10%の関税を課した際に、1974年通商法第122条に基づく権限を逸脱したとする5月6日のCIT判決に端を発している。第122条は、深刻な国際収支赤字に対応するため、最大15%の暫定関税を150日以内で課すことを認めている。国際貿易裁判所(CIT)は、政権の正当化根拠は国際収支赤字ではなく貿易赤字に基づいていると結論付け、議会は歴史的にこの2つの概念を別個のものともみなしてきたと指摘した。

CITの判決は、関税を全国的に停止するものではない。裁判所は、直接的な関税関連の損害を立証したと認められた2つの民間輸入業者とワシントン州を含む、訴訟に関与した特定の原告に救済措置を限定した。他の参加州は、関税の直接的な支払いを立証できなかったため、救済措置は認められなかった。

司法省は判決を不服として控訴し、最高裁判所による審理の可能性を含め、訴訟が継続している間はCITの限定的な差し止め命令の発効を阻止する執行停止を求めている。CITは5月20日に政府の最初の執行停止要請を却下したが、連邦巡回控訴裁判所による審理を待つ間、判決は一時的に停止されたままとされている。

民間輸入業者と、24の民主党知事および州司法長官からなる連合は、司法省の主張は貿易裁判所が既に却下した主張をほぼ繰り返しているだけだと主張している。彼らは、国際貿易裁判所(CIT)の判事3名全員(本案審理で反対意見を述べた判事を含む)が執行停止は正当化されないとの見解で一致したことを指摘し、連邦巡回控訴裁判所も同様の結論に至るべきだと主張している。

司法省は、差し止め命令の発効を認めれば、進行中の貿易交渉が混乱し、貿易相手国との協議における政権の交渉力が弱まり、輸入が急増し、最終的に政府が勝訴した場合、関税収入が失われる可能性があるとして主張している。原告側は、これらの懸念は憶測に基づくものであり、執行停止に必要な法的基準を満たしていないと反論している。さらに、差し止め命令は経済全体ではなく、限られた原告グループにのみ適用されるため、経済への影響は誇張されていると主張している。

各州および民間輸入業者も、実質的な根拠に基づいてCITの判決を擁護している。輸入業者側は、裁判所が立法過程の記録に依拠したことは十分に根拠があると主張する一方、州側は、政権の解釈を受け入れれば、大統領に事実上無制限の裁量権を与え、国際収支赤字の定義を大統領が決定できるようになり、通商法第122条に基づく権限に対する実質的な法的制限が撤廃され、憲法上の問題が生じる可能性があるとして主張している。

原告側はさらに、第122条に基づく関税は、同条の150日間の期限により、2026年7月24日に自動的に失効する予定であると指摘している。原告側は、政府が懸念しているような輸入急増が、数週間後に関税が自然に失効した際に発生しない理由を十分に説明していないと主張し、主張されている損害は差し迫ったものでも、回復不能なものでもないことを示唆している。

この訴訟は、第122条に基づく大統領権限の範囲を問う重要な試金石となっており、最終的には、裁判所が貿易赤字と国際収支赤字の区別をどのように解釈するかに影響を与える可能性がある。連邦巡回控訴裁判所による執行停止請求に関する判決は、より広範な法的異議申し立てが控訴審手続きを経て進行する間、限定的な国際貿易省(CIT)の差止命令が効力を有するか否かを決定づける。

(Global USA 2026年6月2日)

◆米国通商動向：中国は産業政策の新たな段階に入りつつある

ロジウム・グループが米国商工会議所のために作成した最近の報告書は、中国が「中国製造2025」などの従来型プログラムに関連付けられてきた製造業中心の取り組みをはるかに超える、新たな産業政策の段階に入りつつあると主張している。同報告書によると、北京は「あらゆる産業政策」と称するものを追求して、原材料、産業機器、製造業、先端技術、サービス、ソフトウェア、人工知能、デジタルインフラなど、経済活動のほぼすべての層にわたって国家主導の経済計画を拡大している。

報告書は、中国の産業戦略が、バリューチェーン全体を通して中国の競争力を強化することを目的とした包括的かつ体系的な枠組みへと進化していると主張している。北京は、戦略的な製造業分野のみに焦点を当てるのではなく、上流の投入物、生産能力、下流の用途、そして支援サービス産業への影響力拡大をますます強く求めている。報告書によれば、このより広範なアプローチは、中国の貿易支配力の拡大、中国のサプライチェーンへの世界的な依存度の高まり、そして中国からの多角化を目指す外国の動きに対抗するための新たな手段を北京に提供することに貢献している。

報告書で指摘されている注目すべき展開の一つは、産業政策がサービス分野に拡大している点である。これまでの産業政策は、主に製造業とハードウェア産業に重点を置いていた。しかし、中国の新たな戦略は、ソフトウェア開発、データ処理、医薬品研究、デジタルサービス、そして人工知能をますます取り入れている。報告書はこの変化の重要性を強調し、中国の第15次五カ年計画が高付加価値サービスとAI関連産業に特に重点を置いていることを指摘している。今後10年間で世界の人工知能市場が劇的に拡大すると予測されていることを踏まえ、本報告書は、中国と海外諸国との将来の競争は、従来の製造業だけでなく、高度なサービスとデジタル技術にますます焦点を移していくと主張している。

経済計画に加え、本報告書は、中国の産業戦略における法的、規制的、そして強制的な経済手段の統合が進んでいることを強調している。ロジウム・グループによると、北京は輸出管理、制裁措置、そして法的枠組みをますます活用し、外国企業や政府が中国のサプライチェーンへの依存度を低下させることを阻止しようとしている。本報告書は、これらの動きを、産業政策、国家安全保障、そして地政学的競争を結びつけるより広範な戦略の一環として説明している。特に、中国当局が「外国関連法治」と呼ぶものの強化に向けた中国の取り組みに注目が集まっている。これには、国境を越えて中国の利益を促進し、外国の規制措置に対抗できる法的メカニズムの開発が含まれる。

この評価は、中国共産党が中国の法制度の国際的な影響力拡大を図っていることを検証したこれまでの研究と一致する。これまでの分析では、北京は中国法の域外適用範囲の拡大、法制度に対する党の統制強化、そして外国の制裁、輸出規制、その他の対外政策措置に抵抗できる法的メカニズムの構築を目指していると結論づけられてきた。これらの取り組みは、中国の外交政策目標を支援しつつ、国内の政治経済上の優先事項を守るための、より広範な戦略の一環として位置づけられている。

本報告書はさらに、中国が輸出規制と制裁権限の行使を通じて、これらの目標をますます具体化していると主張している。2023年以降、北京は戦略的優位性を維持し、サプライチェーンの多様化を抑

制し、主要な産業投入物に対する影響力を維持するために、特定の重要物質と技術に対する規制を拡大してきた。ガリウムはその顕著な例として挙げられている。中国企業が世界のガリウム生産において支配的な地位を確立した後、北京は2023年に輸出許可要件を導入し、その後、追加の規制と最終用途規制を導入した。本報告書は、これらの措置を、中国が経済的依存関係を戦略的影響力行使の手段として活用する意思の表れとして提示している。

報告書で指摘されているその他の手段には、中国の「信頼できない企業リスト」と「外国制裁法」が含まれる。ロジウム社によれば、これらの仕組みは、政府の行動だけでなく、サプライチェーンの多様化、外国の規制遵守、中国企業に影響を与える措置への支持といった企業の意思決定に対しても、北京が対応できる能力をますます高めている。報告書は、地政学的競争が激化し、多国籍企業が複数の管轄区域にわたる相反する規制要件のバランスを取ろうとする中で、これらの権限の重要性がますます高まる可能性があるとし唆している。

報告書は、現在の傾向が続けば、世界の貿易パターンに重大な影響が生じると予測している。ロジウム社は、G7諸国の製造業輸出約6,500億ドルが、2030年までに中国の市場シェア拡大に直接影響を受ける可能性があるとして推定している。さらに、北京が外国サプライヤーの代わりに国内生産に移行するにつれて、中国の輸入需要が減少することで、2,000億ドル相当の輸出が影響を受ける可能性がある。欧州は、自動車、機械、化学品など、中国企業が競争力を高めている分野に経済が集中しているため、特に脆弱であると指摘されています。ドイツは、中国の輸出競争の激化と中国における輸入品需要の減少という両方の要因を反映し、こうした傾向に最も影響を受けやすい経済の一つとして挙げられている。

また、報告書は、中国への経済的依存度を測る従来の指標では、実際の依存度を過小評価している可能性があるとして指摘しています。2017年以降、米国への中国からの直接輸入は大幅に減少していますが、第三国を経由して輸入される商品に含まれる中国の付加価値は比較的安定している。ロジウム社はこの現象を、ベトナム、メキシコ、台湾などの中間製造・組立拠点の役割の拡大に起因するものとしています。そのため、報告書は、中国からの直接輸入の見かけ上の減少は、中国の生産・サプライチェーンへの全体的な依存度の同等の減少を必ずしも反映しているとは限らないとし唆しています。

今後、報告書は多国籍企業にとってより厳しい事業環境が待ち受けていると予測しています。本報告書は、中国企業が重要な生産能力を国内に維持しつつ海外展開を進めていること、対外投資に対する規制強化、技術移転に対する監視強化、企業行動に影響を与えるための規制手段の広範な活用といった傾向を指摘している。具体例として、電気自動車、半導体関連機器の移転、産業技術移転といった対外投資プロジェクトに対する中国政府の介入が報告されている。

全体として、本報告書は、中国の産業政策が、特定の分野に特化した開発戦略から、産業計画、法的権限、貿易政策、国家安全保障目標、地政学的影響力を統合した包括的な経済枠組みへと進化していると結論付けている。米国商工会議所とロジウム・グループによると、この変革は外国政府や企業にとってますます大きな課題となっており、政策立案者は中国への経済的エクスポージャーをどのように測定・管理するかを再評価する必要性が生じる可能性がある。さらに本報告書は、中国企業がグローバルサプライチェーン、先端技術、新興サービス分野において地位を拡大し続けるにつれ、こうした傾向に対応する機会が時間とともに縮小していく可能性があるとして警告している。

(Global USA 2026年6月2日)

◆米国通商動向：MOFCOM

中国商務省(MOFCOM)は、日本の企業20社を輸出管理リストに、さらに20社を監視リストに掲載した最近の決定を擁護し、これらの措置は日本の安全保障・防衛態勢の変化に対する懸念への正当な対応であると説明した。

商務省の何亜東報道官は記者会見で、これらの措置は輸出管理と国家安全保障に関する中国の法律および規制に基づいて行われたと述べた。また、これらの措置は、中国が日本の軍事力拡大と潜在的な核兵器保有に向けた動きとみなすものに関連する懸念に対処するためのものであると説明した。

報道官はまた、レアアースを含む戦略鉱物の輸出管理に関する中国の立場を改めて表明した。商務省によると、中国は引き続き適用される法律および規制要件に従って主要鉱物の輸出管理を実施しており、正当な民生利用を目的とした輸出については許可審査プロセスを維持している。商務省は、適合する民生利用申請は、確立された許可手続きを通じて引き続き審査されていると述べた。

より広範な二国間関係について、報道官は日中関係が現在、重大な課題に直面していると述べた。これらの困難は、高市早苗首相の発言と行動に起因するとし、現状の責任は日本側にあると主張した。

報道官はさらに、中国が二国間関係悪化の根本原因と見なしている点について、日本が対処するよう求めた。日本政府に対し、最近の政策と行動を反省し、是正措置を講じ、両国間の交流と協力の正常化に資する環境づくりに取り組むよう促した。

今回の発表は、広範な地域安全保障上の懸念、防衛近代化構想、インド太平洋地域における戦略的競争の激化といった背景の中で、日中間の緊張が続いていることを反映している。日本の企業が中国の輸出管理リストおよび監視リストに追加されたことは、北京が輸出管理権限と経済安全保障措置を国家安全保障と外交政策の手段として引き続き利用していることを示している。

(Global USA 2026年6月2日)

◆米国通商動向：更新された CMC リストの概要と分析

2026年6月に更新された米商務省通商法第1260H条に基づく中国軍事企業(CMC)リストは、米中経済関係の悪化が深刻化する中で発表された。習近平国家主席とトランプ大統領の間に以前合意されていた、新たな大規模制裁や制限措置を課さないという非公式な合意は失効したようで、経済・技術競争が再び相互制限とエスカレートする政策措置によって特徴づけられる可能性が高まっている。

考えられる結果の一つは、双方によるより攻撃的な経済手段の復活である。米国側では、追加制裁、輸出規制、投資制限、調達措置などが含まれる可能性がある。一方、中国は、レアアースなどの戦略的に重要な物質、特に米国の製造業および防衛サプライチェーンに不可欠なその他の重要鉱物に対する輸出規制の拡大によって対抗する可能性がある。

更新されたCMCリストの範囲の広さは特に注目に値する。これまで国有防衛企業や従来の軍事請負業者を主な対象としてきたリストとは異なり、今回のリストは商業分野で事業を展開するより幅広い企業を網羅している。アリババ、テンセント、百度、BYD、CATL、NIO、無錫アプテック、TP-Link、トリナソーラーといった企業が含まれていることは、米国の国家安全保障審査の範囲が拡大していることを示しており、軍民両用技術や中国の軍民融合戦略に対する懸念の高まりを浮き彫りにしている。これらの企業の多くは大規模な国際事業を展開しており、民間商業企業として広く認知されているため、2026年6月の更新における注目すべき点のひとつとなっている。

主要な消費者向けおよび商業向けテクノロジー企業が追加されたことから、米国の政策は従来の防衛請負業者のみに監視を限定するのではなく、戦略的に重要とみなされる分野にますます重点を置くようになっていくことが示唆される。リストの拡大範囲は、先端製造業、半導体、人工知能、通信インフラ、バッテリー、電気自動車、バイオテクノロジー、再生可能エネルギー技術といった分野における、より広範な懸念を反映している。

今回の指定は、近い将来、中国企業に対する追加措置が講じられる可能性を示唆しているとも考えられる。今後の措置としては、商務省のエンティティリスト、財務省の非SDN中国軍産複合体企業リスト(NS-CMIC)への追加、そして外国資産管理局(OFAC)による制裁措置などが挙げられる。今後の措置の時期や範囲は依然として不透明だが、セクション1260Hリストの拡大は、戦略的に重要な分野で事業を展開する中国企業に対する米国の監視が今後も継続される可能性が高いことを示唆している。

さらに、今回の指定は、米国の政策立案者が戦略的競争の手段として、より広範な経済・技術関連の規制措置を講じる意欲を改めて示している可能性もある。二国間関係の緊張が高まり続ける場合、半導体、人工知能、クラウドコンピューティング、バイオテクノロジー、先端電池、重要鉱物、投資の流れに影響を与えるさらなる措置が講じられる可能性は否定できない。

2026年6月に更新された米国国防総省の「中国軍事企業(CMC)」リスト(セクション1260H)は、これまでで最も広範なCMC指定の拡大の一つである。更新されたリストには、半導体、人工知能、通信、航空宇宙、バイオテクノロジー、電池、電気自動車、再生可能エネルギー、物流、先端製造業など、多岐にわたる分野にわたる約188の企業が含まれている。

詳細は付録AおよびBをご覧ください。

付録A – 2026年6月更新で追加された企業

テクノロジー、人工知能、インターネット

- Alibaba Group Holding Limited
- Baidu, Inc.
- Tencent Holdings Limited
- SenseTime Group, Inc.
- CloudWalk Technology Co., Ltd.
- Shanghai Yitu Network Technology Co., Ltd.

半導体・電子機器

- ChangXin Memory Technologies, Inc. (CXMT)
- Yangtze Memory Technologies Co., Ltd. (YMTC)
- BOE Technology Group Company Limited
- Tianma Microelectronics Co., Ltd.
- Zhongji Innolight Co., Ltd.

電気自動車、バッテリー、センサー

- BYD Company Limited
- Contemporary Amperex Technology Co., Ltd. (CATL)

- NIO, Inc.
- CALB Group Co., Ltd.
- EVE Energy Co., Ltd.
- Hesai Group
- RoboSense Technology Co., Ltd.

ロボット・ドローン

- Hangzhou Yushu Technology Co., Ltd. (Unitree)
- Autel Intelligent Technology Corp., Ltd.
- Autel Robotics Co., Ltd.
- Chengdu JOUAV Automation Tech Co., Ltd.

バイオテクノロジーおよびライフサイエンス

- WuXi AppTec Co., Ltd.
- MGI Tech Co., Ltd.
- Novogene Company Limited
- Origincell Technology Co., Ltd.

電気通信およびネットワーク

- TP-Link Technologies Co., Ltd.
- Quectel Wireless Solutions Co., Ltd.
- Baicells Technologies Co., Ltd.

再生可能エネルギー

- JA Solar Technology Co., Ltd.
- Trina Solar Co., Ltd.

コンプライアンスに関する考慮事項

セクション1260Hに基づく指定は、リストに掲載された企業との取引を自動的に禁止するものではなく、エンティティリスト指定、OFAC制裁指定、またはその他の包括的な制限と同等とみなすべきではない。しかしながら、国防総省の中国軍事企業(CMC)リストへの掲載は、コンプライアンス、事業、および評判に重大な影響を及ぼす可能性がある。

デューデリジェンス要件の強化

企業は、更新されたCMCリストに掲載されている顧客、サプライヤー、販売代理店、およびビジネスパートナーに関して、強化されたデューデリジェンスを実施することを検討すべきです。多くの指定組織は複雑な企業構造を通じて運営されているため、親会社、子会社、および関連会社に特に注意を払う必要がある。

付録B – セクション 1260H CMC リスト完全版 (2026年6月)

新規追加企業

- Alibaba Group Holding Limited
- Baidu, Inc.
- Tencent Holdings Limited
- SenseTime Group, Inc.
- CloudWalk Technology Co., Ltd.
- Shanghai Yitu Network Technology Co., Ltd.
- ChangXin Memory Technologies, Inc.
- Yangtze Memory Technologies Co., Ltd.
- BOE Technology Group Company Limited
- Tianma Microelectronics Co., Ltd.
- Zhongji Innolight Co., Ltd.
- BYD Company Limited
- Contemporary Amperex Technology Co., Ltd.
- NIO, Inc.
- CALB Group Co., Ltd.
- EVE Energy Co., Ltd.
- Hesai Group
- RoboSense Technology Co., Ltd.
- Hangzhou Yushu Technology Co., Ltd. (Unitree)
- Autel Intelligent Technology Corp., Ltd.
- Autel Robotics Co., Ltd.
- Chengdu JOUAV Automation Tech Co., Ltd.
- WuXi AppTec Co., Ltd.
- MGI Tech Co., Ltd.
- Novogene Company Limited
- Origincell Technology Co., Ltd.
- TP-Link Technologies Co., Ltd.
- Quectel Wireless Solutions Co., Ltd.
- Baicells Technologies Co., Ltd.
- JA Solar Technology Co., Ltd.
- Trina Solar Co., Ltd.

以前リスト掲載企業

- 360 Security Technology Inc. (Qihoo 360)
- Aerospace CH UAV Co., Ltd.
- Aerosun Corporation
- Aviation Industry Corporation of China (AVIC)

- AVIC subsidiaries
- BGI Group and subsidiaries
- CASIC and subsidiaries
- CETC and subsidiaries
- China Electronics Corporation
- China General Nuclear Power Corporation
- China Mobile
- China Telecom
- China Unicom
- China National Nuclear Corporation
- China National Offshore Oil Corporation
- China North Industries Group (Norinco)
- China South Industries Group
- China Communications Construction Group
- China State Construction Engineering Corporation
- China State Shipbuilding Corporation
- China Three Gorges Corporation
- Commercial Aircraft Corporation of China (COMAC)
- COSCO Shipping and subsidiaries
- CRRC Corporation
- Dahua Technology
- Dawning Information Industry Co., Ltd. (Sugon)
- DJI
- Hikvision
- Huawei Technologies Co., Ltd.
- Inspur Group
- NetPosa Technologies
- Phenix Optical Company Limited
- SDIC Intelligence
- Semiconductor Manufacturing International Corporation (SMIC) and subsidiaries
- Sinotrans & CSC Holdings Co., Ltd.
- Wuhan Geosun Navigation Technology Co., Ltd.
- Zhejiang Dahua Technology Co., Ltd.
- および親会社グループの下で特定されるその他の子会社および関連会社。

(Global USA 2026年6月9日)

◆欧州通商政策情報

産業加速法：最近の議論

欧州委員会が2026年3月に提案した産業加速法をめぐり、EU機関が年内の合意達成を目指す中、関係国や業界から様々な意見が出ている：

- JBCE・JMCブリュッセルおよびJEITA/JMTBA/JLMC欧州が入手した情報によれば、特にEVに対するEU産要件を日本車が満たすことは困難だとして、赤沢経済産業相は、5月7日に行われたEUのセジョルネ上級副委員長らとのハイレベル会合にて法案の修正を要求したという。また、JBCEも5月8日にEU側に要望書を提出したという。
- 欧州自工会(ACEA)は、5月8日、産業加速法案に対する立場を発表した。ACEAは、電池部品の域内供給前提が過度に楽観的で、EU電池バリューチェーンの実情を踏まえていないと懸念を表明。また低炭素鋼・アルミやEU域内組立の定義を法案採択の前に明確化するよう要求した。

(ACEAリリース)

欧州委員会が中国・イラン・ロシア産の太陽光インバーターへの資金提供を禁止

報道によれば、欧州委員会は欧州の提携銀行(主に欧州投資銀行(EIB)と欧州復興開発銀行(EBRD))に対し、11月1日から中国、イラン、ロシア製の太陽光発電インバーターを使用する再エネプロジェクトへの融資を停止するよう通達した。2018～2024年にかけて中国製インバーター(HuaweiとSungrow)のEU輸入シェアは45%から61%へと急増した。なお、「将来的には他の太陽光発電部品にも対象が拡大される可能性がある」という。

(Euractiv記事 2026年5月4日7日)

エネルギー価格急騰を受け欧州でのヒートポンプ需要が急増

最近の化石燃料危機を受け、消費者はエネルギー価格を抑えるために急速にヒートポンプの導入を進めているという。欧州ヒートポンプ協会(EHPA)が5月4日に公開した最新データによれば、2026年Q1の欧州におけるヒートポンプの販売台数は、前年同期比で17%増加した。さらにフランス、ドイツ、ポーランドでは、平均で25%の増加を見せた。

(EHPAニュース 2026年5月4日)

- 欧州委員会は、デューデリジェンス指令の義務対象外の企業による任意の自主基準を定める委任法案を5月6日に公開し意見募集を開始した(6月3日まで)。同法案では、新たに「バリューチェーン上限」という概念が導入され、これによりCSRDの対象企業は、従業員数1,000人以下のバリューチェーンパートナーに対し、自主基準に定められた範囲を超える情報の提供を要求することはできない。

(公開協議ページ)

いずれの委任法案に関しても、意見募集終了後、欧州議会およびEU理事会による精査(2ヶ月間、要請に2ヶ月延長可能)にかけられ、異議申し立てがなければ正式に採択される。

炭素国境調整メカニズム (CBAM) : 最近の動向

- 欧州委員会は、5月13日、第3国において支払われた炭素価格分をCBAM証明書数から差し引く方法を定める実施規則案を公開し意見募集を開始した(6月10日まで)。EUのCBAM規則では、CBAM申告者(つまり対象製品の輸入事業者)が、同一の排出に対して二重の炭素価格を支払うことがないよう、第3国で実際に支払われた炭素価格に相当する分を、CBAM証明書の提出数から差し引くことができると規定している。今回公開された実施規則案では、対象炭素価格制度の種類や炭素価格の算定方法、ユーロへの換算方法、実質的に支払った炭素価格の証明と検証方法などを規定している。

(公開協議ページ)

- 欧州委員会が2025年12月に提案した、CBAMの適用範囲を下流製品へ拡大し回避防止措置を導入する改正案をめぐり、欧州議会の担当委員(ENVI)では、委員会の立場をまとめた報告書草案に対し1,300件を超える修正案が提出された。

(修正案35-234、235-425、548-806、807-1070、1071-1336、1337-1359、1360-1374)

- 欧州委員会は5月27日、CBAMに関する最新のQ&Aリストを公表した。Q&Aには、CBAMの適用範囲や義務に関する一般的な質問の他、申告やCBAM登録簿、証明書、組み込み排出量の算定方法、認証・検証、セクター別の規則、関税関連事項に関するより具体的な質問などが追加された。

(Q&A)

日 EU : 欧州委員会が EPA の評価報告書案を公開

欧州委員会は5月21日、EU・日本経済連携協定(EPA)の評価に関する最終報告書案を公表した。報告書案によれば、同EPAは「中核的な経済目標を概ね達成」し、「より広範な経済・持続可能性課題に関する協力のプラットフォームとしての役割を果たしてきた」。また、経済面では、同EPAによりEUのGDPが年間約130億ユーロ、日本のGDPが年間推定236億ユーロ増加したという。一方で、対日直接投資や日本の公共調達手続きへのアクセスについては課題が残るとしている。

(欧州委員会ページ)

3. 工作機械関連企業動向

◆ DN ソリューションズ、工作機械を超えてソフトウェア・グローバルブランドの拡大を本格化

DNソリューションズは今月に入って次々と成果を上げている。スマートファクトリー監視ソフトウェアを海外・防衛産業の顧客に供給すると同時に中国最大の工作機械展示会で買収したドイツ企業と初めて共同マーケティングに取り組んだ。工作機械の製造を超えて、ソフトウェアとグローバルブランド戦略で事業領域を同時に拡大する取り組みだ。

DNソリューションズは、4月28日にスマートファクトリーモニタリングソフトウェア iDOO RMS+を米国の建設機械部品メーカーと国内の防衛部品メーカーからそれぞれ受注したと発表した。

iDOO RMS+は、工作機械など現場設備のリアルタイム状態監視、稼働・非稼働の生産性分析、MES・ERPシステム連携機能を備えたソフトウェアである。切削加工産業の国際標準通信規格であるOPC UA (Open Platform Communications Unified Architecture)を基盤に開発されており、特定の設備メーカーに依存せず様々な設備やシステムと連携できる。

今回の受注で目立つのは顧客層の多様性である。DNソリューションズの工作機械を使用しなくてもiDOO RMS+を導入できる点から、ソフトウェア事業がハードウェア販売と独立して市場を拡大できることを示している。

DNソリューションズは、これに大規模言語モデル(LLM)ベースのチャットボット機能を搭載した。これにより現場でのアラームや障害発生時に自然言語による質問応答で即座に対応方法を確認できる。工作機械の操作マニュアル、保守ガイド、アラームコードなどを事前に学習し、現場作業者を支援する構造である。

DNソリューションズは「生産設備のデータ標準化と相互運用性に基づくデジタル製造・自動化技術が市場に認められたことは意義がある」と述べ、今後iDOO RMS+を工作機械だけでなくロボット、オートメーション設備、フィジカルAIまで網羅する製造プラットフォームへ拡大する計画だと明らかにした。

一方、DNソリューションズは海外展示の前線も同時に拡大している。DNソリューションズは21日から25日まで中国・上海国際展示センターで開催されたCCMT 2026 (China CNC Machine Tool Fair)に参加、7台の機器を出展した。電気自動車産業用のNHP5505第2世代、DEF5005、SVM4105、半導体産業用のDNC8050、精密機械・医療産業用のDVF5000第2世代、航空産業用のSMX2600ST・DNX 2100Sが展示された。

CCMTは北京のCIMTと共に中国の工作機械産業を代表する二大専門展示会である。特にイベントが開催された中国の華東地域は、ハイエンド機器の需要が最も高い市場とされている。DNソリューションズがこの展示を選んだ理由もここにある。

今回の展示のもう一つの注目ポイントは、ドイツのHELLERとの共同マーケティングだった。DNソリューションズは、昨年1月末にHELLERの買収手続きを完了した。

130年以上の歴史を持つドイツのハイエンド工作機械メーカーで、超精密マシニングセンター分野において世界最高水準の技術力を有する企業である。HELLERを買収して初めて、中国市場で統合ブランドを公式化した場であった。

HELLERの買収によりDNソリューションズの連結売上は約3兆ウォン規模に拡大する見通しだ。2024年の連結売上高(2兆1,000億ウォン)に対して40%以上増加した数値である。両社は今後、R&D・マーケティング・サービス・生産の全領域で共同開発ロードマップを策定する予定だ。

DNソリューションズ中国法人長のキム・チュは「今回のCCMTでは、電気自動車及び半導体産業に特化した加工ソリューションとハイエンド・自動化ソリューションを紹介することで、ブランド認知度を高め、中国市場での影響力をさらに拡大していく」と語った。

(DAILU POP 4月28日付)

<https://www.dailypop.kr/news/articleView.html?idxno=98432>

◆ SMEC、1 四半期の売上 292 億 半導体装置の受注 324 億を次々に確保

工作機械及び自動化ソリューションの専門企業であるSMECは、2026年第1四半期の売上高が292億ウォンに達したと発表した。前年同期比で売上は減少し営業利益は赤字に転換したものの半導体装置の受注が本格化し、上半期の回復と下半期の業績拡大への期待感が高まっている。

第1四半期の業績不振の背景には、戦争の長期化による国際経済の不安、原材料価格の上昇、一部の重要部品の供給不安などが複合的に作用した。特に海外製造業への投資意欲が低下したことで、輸出部門は前年に比べて低調な流れを示し、コスト負担の拡大も収益性に直接的な影響を与えた。

ただし、同社は今回の第1四半期の不振は構造的な需要減速ではなく、外部環境の悪化と売上認識のタイミングのずれによる一時的な現象だと説明した。国内の半導体市場を中心に、半導体素材の加工や特化装置に対する需要が急速に拡大しており、関連する受注量も着実に流入しているというのが会社側の分析である。

実際、SMECは最近、半導体装置の受注を連続で成立させ、受注の勢いを強化している。3月には約220億ウォン規模の半導体装置供給契約を締結し、その後、セラミック・クォーツなど半導体素材加工に特化した装置約60台に対する約104億ウォン規模の追加供給契約を次々に確保した。3月の受注分と最近の追加受注分を合算すると、短期間で324億ウォン規模の半導体装置受注を確保したことになり、これは四半期売上高に迫る規模だ。

今回の追加受注は、セラミック・クォーツ素材を精密加工する半導体プロセス装置市場を対象としており、高付加価値特化装置分野での技術競争力を実証した結果と解釈できる。SMECは半導体向けの特化装置新製品開発と生産能力強化に注力し、関連事業の比重を継続的に高めていく方針だ。

受注残高は現在700億ウォンの水準を維持しており、上半期以降に納品予定の量が集中しているため、下半期に入るにつれて業績反映が本格化する見込みだ。会社関係者は「半導体特化装置を中心に受注の流れが安定して続いているため、上半期のターンアラウンドと下半期の業績拡大を期待している」と述べた。

SMECは工作機械と自動化ソリューションを基盤に、半導体・素材加工装置分野まで事業領域を拡大し、収益構造の多角化を推進している。グローバルな不確実性が続く中でも、半導体関連の新規受注を中心に業績回復の基盤を固めているとの評価がある。

(HELLO 5月19日付)

<https://www.hellot.net/news/article.html?no=112672>

◆ Hurco、2026 会計年度第 2 四半期決算を発表

Hurco社は、2026年4月30日を期末とする第2四半期決算を発表した。

2026会計年度第2四半期に237万2,000ドルの純損失(希薄化後1株当たり0.37ドル)を計上した。

これは、2025会計年度の同期間の純損失406万3,000ドル(希薄化後1株当たり0.62ドル)と比較したものである。

2026会計年度上半期(1~6月)では、584万ドルの純損失(希薄化後1株当たり0.91ドル)を計上した。

これは、2025会計年度の同期間の純損失838万3,000ドルと比較したものである。2025会計年度の同期間の希薄化後1株当たり利益は1.29ドルであった。

2026会計年度第2四半期の売上高およびサービス料は4,761万8,000ドルで、前年同期比675万1,000ドル(17%)増加した。

この増加には、財務報告目的で海外売上高を米ドルに換算した際の、135万2,000ドル(3%)の有利な為替変動の影響が含まれている。

2026会計年度上半期の売上高およびサービス料は9,048万6,000ドルで、前年同期比320万5,000ドル(4%)増加した。

この増加には、財務報告目的で海外売上高を米ドルに換算した際の、316万5,000ドル(4%)の有利な為替変動の影響が含まれている。

グレッグ・ヴォロヴィック最高経営責任者(CEO)は、「史上最も深刻な工作機械市場の低迷期の一つにおいて、2年以上にわたり規律ある経営を続けてきた結果、第2四半期は目標としていた成果を達成した。受注額は前年同期比41%増の6,160万ドルとなり、ここ数年で最も高い四半期受注額を記録した。南北アメリカでは63%、アジア太平洋地域では66%、ヨーロッパでは17%と、ドイツ市場の低迷が続く中でも幅広い地域で受注が伸びた。第2四半期の需要構成も好調である。顧客は、当社の5軸および高性能立形フライス盤をますます選択しており、これは当社独自のWinMax制御技術、Takumiプラットフォーム、および自動化への投資の価値を反映している。この需要構成に加え、規律ある価格設定とコスト削減により、売上総利益率は300ベースポイント上昇して22%となり、1株当たり純損失は前年同期比で40%縮小した。まだ黒字化には至っていませんが、営業利益は着実に増加している。」と述べた。景気低迷期に築き上げてきたレバレッジが、業績に表れ始めている。5,000万ドルを超える現金および現金同等物、より効率的な運転資本水準、そして無借金経営により、需要の強さを示す初期の兆候が持続すれば、当社は積極的に市場に参加できる財務的な柔軟性を有しており、そうでない場合でも、継続的な変動に耐えることができる。当社は今後も、Hurcoを長期的な価値創造のために経営していく。

以下の表は、2026年4月30日および2025年4月30日を期末とする第2四半期および6ヶ月間の地域別純売上高およびサービス料を示している。2026会計年度第2四半期の米州地域における売上高は、2025会計年度の同時期と比較して35%増加した。

(単位：千ドル)

	Three Months Ended April 30,				Six Months Ended April 30,			
	2026	2025	\$ Change	% Change	2026	2025	\$ Change	% Change
Americas	\$20,740	\$15,361	\$5,379	35%	\$37,396	\$33,469	\$3,927	12%
Europe	19,814	21,608	(1,794)	(8)%	40,361	43,222	(2,861)	(7)%
Asia Pacific	7,064	3,898	3,166	81%	12,729	10,590	2,139	20%
Total	\$47,618	\$40,867	\$6,751	17%	\$90,486	\$87,281	\$3,205	4%

これは主に、Hurco、Takumi、およびMilltronics製工作機械の出荷台数増加によるものである。工作機械の出荷台数増加は、主にHurco製5軸加工機および大型高性能立形フライス盤、Milltronics製工具室用工作機械、およびTakumi製立形フライス盤の出荷台数増加によるものである。2026会計年度上半期の米州地域における売上高は、2025会計年度の同時期と比較して12%増加した。これは主に、Hurco製5軸加工機および大型高性能立形フライス盤、ならびにTakumi製立形フライス盤の出荷台数増加による。

2026年度第2四半期の欧州売上高は、2025年度同期比で8%減少した。ただし、財務報告目的で海外売上高を米ドルに換算した場合、為替変動によるプラスの影響が6%含まれている。2026年度上半期の欧州売上高は、2025年度同期比で7%減少した。こちらも、財務報告目的で海外売上高を米ドルに換算した場合、為替変動によるプラスの影響が7%含まれている。両期間における欧州売上高の前年同期比減少は、主にイタリアの完全子会社であるLCM Precision Technology S.r.l.（以下「LCM」）が製造するHurco製工作機械および電気機械部品・付属品の出荷量減少によるものであり、Takumi製5軸加工機および立形フライス盤の出荷量増加によって部分的に相殺された。

2026会計年度第2四半期および上半期のアジア太平洋地域における売上高は、前年同期比でそれぞれ81%増、20%増となりました。なお、財務報告目的で海外売上高を米ドルに換算した場合、各期間とも2%の有利な為替変動の影響が含まれている。両期間におけるアジア太平洋地域の売上高の前年同期比増加は、主に中国およびインドにおけるHurco製5軸加工機および大型高性能立形フライス盤、ならびにTakumi製5軸加工機および立形フライス盤の出荷増加によるものである。

2026会計年度第2四半期の受注額は6,164万7,000ドルで、2025会計年度の同期間と比較して1,794万7,000ドル(41%)増加した。なお、海外受注額を米ドルに換算した場合、181万5,000ドル(4%)の有利な為替変動の影響が含まれている。2026会計年度上半期の受注額は1億362万7,000ドルで、2025会計年度の同期間と比較して1,984万2,000ドル(24%)増加した。この増加には、海外からの受注を米ドルに換算した際の336万6,000ドル(4%)の有利な為替変動効果が含まれている。

以下の表は、2026年4月30日および2025年4月30日を期末とする第2四半期および上半期の地域別新規受注額を示している。

(単位：千ドル)

	Three Months Ended April 30,				Six Months Ended April 30,			
	2026	2025	\$ Change	% Change	2026	2025	\$ Change	% Change
Americas	\$27,552	\$16,945	\$10,607	63%	\$44,853	\$31,588	\$13,265	42%
Europe	24,661	21,086	3,575	17%	43,627	40,456	3,171	8%
Asia Pacific	9,434	5,669	3,765	66%	15,147	11,741	3,406	29%
Total	\$61,647	\$43,700	\$17,947	41%	\$103,627	\$83,785	\$19,842	24%

2026会計年度第2四半期および上半期の米州における受注は、2025会計年度の同期間と比較してそれぞれ63%増、42%増となった。これは主に、Hurcoの5軸加工機および大型高性能立形フライス盤、ならびにTakumiの立形フライス盤に対する需要増加による。

2026会計年度第2四半期の欧州における受注は、前年同期比で17%増加した。これは、海外受注を米ドルに換算した場合、7%の有利な為替変動効果を含んでいる。受注増加の主な要因は、英国およびドイツにおけるHurcoの高性能フライス盤、ならびにフランスにおけるTakumiの5軸加工機に対する顧客需要の増加である。2026会計年度上半期の欧州における受注は、前年同期比で8%増加した。これは、海外受注を米ドルに換算した場合、8%の有利な為替変動効果を含んでいる。前年比増加は主に、英国、ドイツ、フランスにおけるHurcoおよびTakumiの5軸加工機と高性能立形フライス盤に対する顧客需要の増加、およびLCM社製電気機械部品・付属品に対する顧客需要の増加によるものであり、イタリアとドイツにおける機械需要の減少によって一部相殺された。

2026年度第2四半期のアジア太平洋地域における受注は、前年同期比66%増加した。これは、海外受注を米ドルに換算した際の4%の為替変動によるプラス効果を含んでいる。受注増加の主な要因は、顧客が所在するアジア太平洋地域におけるTakumi製機械、および中国におけるHurco製立形フライス盤に対する顧客需要の増加である。2026年度上半期のアジア太平洋地域における受注は、前年同期比29%増加した。これは、海外受注を米ドルに換算した際の2%の為替変動によるプラス効果を含んでいる。アジア太平洋地域における受注の前年比増加は、主に、当社のお客様が所在するアジア太平洋地域全体での匠製機械に対する顧客需要の増加と、インドにおける高性能なHurco製立形フライス盤に対する需要の増加によってもたらされた。

(Hurco Press Release 2026年6月5日付)

◆シーメンス、ルーマニアに AI 活用デジタル工場 配電機器の生産強化

独電機大手シーメンス(Siemens)は、ルーマニア中部シビウに人工知能(AI)を活用したデジタル工場を新設する。投資額は数千万ユーロで、低圧配電ソリューション「セントロン(Sentron)」に特化した独立事業体として運営する。

新工場の延べ床面積は約14,500平方メートル。小型回路遮断器や漏電遮断器、電子回路保護装置などを生産する計画で、2026年8月に着工し、2028年の完成を見込む。

同プロジェクトでは、建設前にデジタルツイン技術を用いて生産環境を仮想空間で再現し、最適な工場設計と工程計画を策定する。稼働後はロボット技術とAI、IoT(モノのインターネット)を統合した高度自動化システムを導入。無人搬送車による資材搬送に加え、部品調達から最終検査、出荷までの全工程をシステムが一元管理する。

同工場は配電機器の需要拡大に対応するとともに、データ駆動型の生産体制を確立する拠点となる。

(プレスリリース 4月23日付)

<https://news.siemens.com/en-us/o-noua-fabrica-digitala-siemens-in-romania-cu-emisii-zero-de-carbon-si-cu-procese-bazate-pe-transferul-de-date/>

◆シェフラーと米スパイアが宇宙分野で協業合意 2030年未までに欧州独自の宇宙インフラ実現へ

ドイツの軸受大手シェフラーは27日、宇宙ベースのデータ・分析サービスを手がける米スパイア・グローバルと協業の基本合意を締結したと発表した。欧州独自の宇宙インフラ構築を目指し、欧州の主権的な宇宙ハードウェアとミッションビジネスの2030年末までの実現を目標に掲げる。

両社は宇宙ハードウェアのサブシステム、衛星が宇宙空間で正常に稼働するための基盤となる衛星バス、RF・環境センサーを共同開発する。シェフラーが精密技術と製造のノウハウを、スパイアが宇宙分野での経験をそれぞれ持ち寄る。防衛、気象観測、民間セキュリティ、重要インフラ分野での活用を想定しており、欧州宇宙産業の新たな標準確立を目指す。

シェフラーのクラウド・ローゼンフェルト最高経営責任者(CEO)は「精密製造、モーター、軸受分野における長年の経験とパワーエレクトロニクス分野でのコンピテンスにより、シェフラーが提供するのほかに、成長する欧州の宇宙産業が必要とする(過酷な環境に耐えうる)宇宙利用可能な産業ベースのハードウェアだ」と述べた。

スパイアは2013年以降、240基以上の衛星を開発・製造・打ち上げてきた実績を持つ。自社の衛星コンステレーションを運営し、取得データをもとに多様なサービスを提供している。シェフラーは、スパイアが米国に加え欧州にも衛星生産拠点を持つ点を評価し、協業パートナーに選定した。

(プレスリリース 5月27日付)

https://www.schaeffler.de/de/news_medien/pressemitteilungen/pressemitteilungen_detail.jsp?id=88194560

4. 展示会情報

◆第35回 BI-MU、スマートファクトリー、オートメーション、サステナブル製造の最新トレンドにスポットライト

イタリア製造業を代表する見本市である第35回BI-MUは、金属切削・成形工作機械、ロボット、オートメーション、デジタル・積層造形、そして関連技術を展示し、2026年10月13日～16日までフィエラミラノ・ローで開催される。

大手企業や業界リーダーを含む多数の企業が既に展示会への参加を表明している。UCIMUが主催し、EFIM-ENTE FIERE ITALIANE MACCHINEが運営する本展示会では、インダストリー4.0ソリューションとオートメーションシステムを統合し、高度なデジタルファクトリープロセスを実現する、最新世代のデジタル化され相互接続された機械と技術に焦点を当てる。

フィエラミラノ・ロー展示センターのホール22と24で開催され、両ホールの向かい側にあるホール13にも拡張する可能性がある。

工作機械に加え、7つの技術テーマが設けられる。SIRI(イタリアロボット・オートメーション協会)がスポンサーを務める「RobotHeart」は、自動化、コンポーネント、システム、人工知能に焦点を当てる。AITA(イタリア積層造形技術協会)がスポンサーを務める「AMITALY」は、積層造形サプライチェーン全体を対象とする。BI-MU Digitalは、高度なソフトウェア、接続性およびデータセキュリティ技術、センサー、自己適応システムなど、スマートファクトリー向けのデジタルソリューションを紹介する。計測機器、試験機、マシンビジョンを提供する「Metrology and Testing」、FEDERTEC(イタリア流体動力メカトロニクス技術・コンポーネント生産チェーン協会)がスポンサーを務める、機械、電気、空気圧動力伝達用コンポーネントを展示する「Power4Machines」、材料性能向上プラントおよびシステムを紹介する「Heat and Surface Treatments」である。

今回の新テーマ「ツールテック」では、効率的かつ高精度な生産を実現する先進的なツールに焦点を当てます。また、改修・アップグレードされた機械やシステムも展示される。

第35回BI-MUでは、来場される専門家の方々にとって興味深いテーマ別の文化体験プログラムも多数ご用意している。さらに、成長の可能性と需要の高まりが特に注目すべき2つの分野、航空宇宙・防衛とエネルギーに特化したフォーラムも開催される。

10月14日には「航空宇宙・防衛の世界と90分」、10月15日には「エネルギーの世界と90分」と題したイベントが開催され、主要企業の代表者によるパネルディスカッションが行われる。

10月15日には、UCIMUアカデミーが主催し、EFIMが運営する高校生向け自動化・ロボットコンテスト「ROBOTGAMES」の第2回が開催されます。イタリア全土の11校から選ばれた12チームが、産業用途向けの革新的なロボット自動化プロジェクトを発表する。

イタリア高等技術専門学校(ITSアカデミー)の学生を対象に、イタリア積層造形技術協会(AITA)とEFIMは、若手人材に積層造形技術を紹介する新たな全国コンテスト「Additive Future Lab」を開催する。

さらに、BI-MU FUTURTECH AWARDSでは、展示会で紹介される製造分野における最も革新的なソリューションを表彰する。コンテストは、機械イノベーション、デジタル化、サステナビリティの3つのカテゴリーで構成されている。

来場者の利便性を高めるため、展示会会場直結の高速列車が運行される。

(UCIMU Press Release 2026年5月付)

◆ IMTS2026 視察団のご案内



IMTS 2026視察団のご案内 シカゴ国際工作機械見本市

Aコース(3泊5日IMTS視察)
2026年9月14日(月)~9月18日(金)

Bコース(4泊6日IMTS+企業視察)
2026年9月14日(月)~9月19日(土)

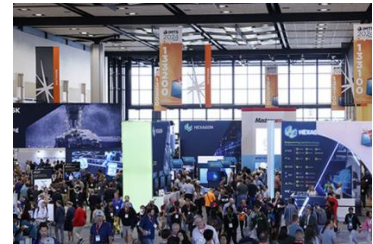
日次	月日(曜)	都 市 名	時 間	交通機関	日 程	食事
1	9月14日 (月)	羽 田 発 シカゴ着	9:00	JL-10	羽田空港第3ターミナル集合 日本航空にて空路、アメリカ・シカゴへ	機内
			11:30	----- 日付変更線通過 -----		
			9:10	専用車	着後、ホテルへ (荷物を預けます) *空港より1日目はBコースにご参加の皆様と同一行動となり、 専用車は混乗となります。	
			午前	シャトルバス	日本語ガイド共にシャトルバスを利用し、会場へ IMTS視察	昼:X
	夕刻	シャトルバス	日本語ガイドと共にシャトルバスでホテルへ 着後、ホテルチェックイン	夕:X		
					<シカゴ泊>	
2	9月15日 (火)	シカゴ滞在	終日	シャトルバス	IMTS視察 (各自) 懇談夕食会 (A、Bコース合同)	朝:○ 昼:X 夕:○
						<シカゴ泊>
3	9月16日 (水)	シカゴ滞在	終日	シャトルバス	IMTS視察 (各自)	朝:○ 昼:X 夕:X
						<シカゴ泊>
4	9月17日 (木)	シカゴ発	8:30	専用車	日本ガイドと共に空港へ	朝:○
			12:05	JL-9	空路、帰国の途へ	昼:X 機内
					<機中泊>	
5	9月18日 (金)	羽 田 着	15:20		到着、通関手続後、解散	機内

日次	月日(曜)	都 市 名	時 間	交通機関	日 程	食事
1	9月14日 (月)	羽 田 発 シカゴ着	9:00	JL-10	羽田空港第3ターミナル集合 日本航空にて空路、アメリカ・シカゴへ	機内
			11:30	----- 日付変更線通過 -----		
			9:10	専用車	着後、ホテルへ (荷物を預けます) *空港より1日目はAコースにご参加の皆様と同一行動となり、 専用車は混乗となります。	
			午前	シャトルバス	日本語ガイド共にシャトルバスを利用し、会場へ IMTS視察	昼:X
	夕刻	シャトルバス	日本語ガイドと共にシャトルバスでホテルへ 着後、ホテルチェックイン	夕:X		
					<シカゴ泊>	
2	9月15日 (火)	シカゴ滞在	終日	シャトルバス	IMTS視察 (各自) 懇談夕食会 (A、Bコース共通)	朝:○ 昼:X 夕:○
						<シカゴ泊>
3	9月16日 (水)	シカゴ滞在	終日	専用車	現地企業視察 (1社予定：昼食付) ※ Harley Davidson Factory Tour、m-HUB、TRUMP 社、 Amada America社、Bystronic社の中から1社を予定しております。 8月中旬までにご連絡します。	朝:○ 昼:○ 夕:X
						<シカゴ泊>
4	9月17日 (木)	シカゴ滞在	終日	シャトルバス	IMTS視察 (各自)	朝:○ 昼:X 夕:X
						<シカゴ泊>
5	9月18日 (金)	シカゴ発	8:30	専用車	日本ガイドと共に空港へ	朝:○
			12:05	JL-9	空路、帰国の途へ	昼:X 機内
					<機中泊>	
6	9月19日 (土)	羽 田 着	15:20		到着、通関手続後、解散	機内

※上記日程表は5月01日を基準に作成しておりますが、利用交通機関等の都合により変更となる場合がございます。予めご了承ください。
 ※初日はホテルからIMTS会場まで、IMTS会場からホテルまでは日本語ガイドが同行いたします。
 ※現地企業の都合により、9/15/16・17の行程を入れ替えてご案内する場合がございます。
 ※時間帯の目安 早朝04:00~06:00 朝06:00~09:00 午前09:00~12:00 午後12:00~16:00
 夕刻16:00~18:00 夜18:00~22:00 深夜22:00~27:00 終日09:00~17:00

【利用航空会社】JL:日本航空
 【シカゴ市内利用ホテル】The Chicago Hotel Collection - Magnificent Mile
 最寄のIMTSシャトルバス発着所 (Allerton Warwick Hotel前) は宿泊ホテルから約160m 徒歩2分。
 (部屋タイプ) 2名1室：ツイン、1名1室：シングルまたはダブル (ご指定はいただけません)
 ※部屋のバスはシャワーのみです。お客様によってはバスタブ付きの部屋になる場合があります。
 ※「シャトルバス」はIMTS参加者専用です。チケットを所持している場合は、無料でご利用いただけます。

- 募集人員 : Aコース22名 (最少催行人員：17名) Bコース15名 (最少催行人員：13名)
- 旅行代金 : Aコース465,000円 Bコース638,000円 ツイン2名1部屋利用お一人様料金 (燃油サーチャージは含まれておりません。) (前回2024年IMTS)
 一人部屋追加料金 Aコース120,000円 Bコース160,000円
 各国空港諸税および燃油サーチャージは含まれておりません。別途収受いたします。
 羽田空港施設使用料(2,950円)、国際観光旅客税 (3,000円) 海外空港諸税(約12,020円)、燃油サーチャージ(目安112,000 5/01現在)
 *燃油サーチャージは目安となります。増額された場合は差額分を追加収受し、減額された場合はその分を返金致します。
- 申込締切日 : 2026年7月3日(金) *締切日前でも定員に達し次第、締め切ります。
- 添 乗 員 : Aコース：1日目の羽田空港から2日目終了まで、Bコースの添乗員が同行します。Bコース：添乗員が同行します。



★お問い合わせは

当広告からのお申込みは承っておりません。正式な募集パンフレット、参加申込書をご用意しております。
 お気軽にお問い合わせください。

東武トップツアーズ株式会社 法人営業東事業部 第2営業部

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-10-5 住友生命茅場町ビル2階

TEL : 050-9000-4237 FAX : 03-6667-0568

masahito_takeuchi@tobutoptours.co.jp

営業時間 平日9:30~17:30 (土日祝：休み) 担当：竹内雅仁

総合旅行業務取扱管理者/藤本 一樹

後援：一般社団法人日本工作機械工業会

旅行企画・実施：東武トップツアーズ株式会社

観光庁長官登録旅行業第38号 (一社)日本旅行業協会正会員
 ボンド保証会員

5. その他

◆ユーザー産業情報

RCT GH Hydrogen、ザールブリュッケンで電解スタック生産へ

水素技術メーカーのRCT GHハイドロジェン(RCT GH Hydrogen GmbH)と機械メーカーのブリュック(Brück GmbH)は、電解槽技術の生産で協業する。RCT GHハイドロジェンは2026年6月から、独ザールブリュッケンのブリュック拠点で電解スタックを製造する計画だ。

生産開始時には、年産250メガワット(MW)規模の電解設備の一部となる5MW電解槽を組み立てる。電解槽は産業用水素製造向けで、アルカリ加圧電解によりグリーン水素を生成する。

同社は「Hydrogen-as-a-Service」モデルを掲げ、顧客企業の拠点内に設備を設置し、水素を現地で生産・利用する仕組みを想定する。産業企業はこれにより、エネルギー価格や化石燃料への依存を抑えられるとしている。

ブリュック拠点では2.5MWの実証設備も計画されており、生成した水素は鍛造部品の高温プロセスで天然ガスを代替できる可能性がある。技術は技術監査機関TÜVの認証済みで、中国の江蘇国富水素能技術装備(Jiangsu Guofu Hydrogen Energy Equipment Co. Ltd.)との協力を通じて材料を調達する。初号機は2026年中にドイツの産業企業へ納入・稼働する予定だ。

(h2-news.de 5月4日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/elektrolyse-anlagen-produktion-in-saarbruecken-startet-im-juni/>

ARA など 3 社、廃プラ再資源化設備を建設

オーストリアのエンンハーフェンで2026年、包装回収大手ARA(Altstoff Recycling Austria)、建設・リサイクル企業ベルネガー(Bernegger)、独リサイクル企業デア・グリュエネ・プンクト(Der Grüne Punkt)が、廃プラスチック再資源化設備「Sort4cycle」の建設を開始した。投資額は4,000万ユーロ超。2027年の稼働を予定し、従来は焼却されてきた混合・汚染プラスチックを年41,000トン処理する。

工程は二段構成となる。第一段階では人工知能(AI)を活用した高度な後選別を行い、複合材や暗色樹脂を識別して、機械リサイクル可能な素材を回収する。残渣は特許技術「UPCYCLE」工程に投入し、混合プラスチックを分子レベルで分解・再構築する化学リサイクルに回す。生成物はポリオレフィン系再生原料となり、食品接触用途にも対応可能な品質を目指す。

単一使用後に焼却されてきた材料に二次利用の道を開く狙いだ。欧州連合(EU)は2030年までに包装材のリサイクル率55%を目標に掲げるが、不足量は350万トンとされる。同設備はその約1%を補完する規模となる。

(solarify.eu 4月28日付)

<https://www.solarify.eu/2026/04/28/sort4cycle-41-000-tonnen-plastik-die-nicht-mehr-verbrannt-werden-sollen/>

ミシュランと CNRS、次世代高分子研究拠点を設立 低エネルギー・高循環材料を開発

仏タイヤ大手ミシュラン(Michelin)と仏国立科学研究センター(CNRS)は4月22日、次世代高分子材料の共同研究ラボ「PolMixLab」を開設した。環境対応と高性能化の両立が求められる中、エラストマーなど高分子材料の革新を加速する。

同ラボでは、リサイクル性が高く、製造時のエネルギー消費を抑えたポリマー材料の開発を産学連携で進める。対象分野はモビリティに加え、医療、航空宇宙、建設など多岐にわたる。

研究には、CNRSのほか、INSAリヨン(INSA Lyon)、リヨン第1大学、ジャン・モネ大学が参画し、高分子材料工学研究所のチームを通じてミシュランと連携する。期間は4年で、①デジタルシミュレーションによる製造エネルギー削減、②革新的構造設計による高性能材料の創出、③配合段階から再利用を可能とするショートループリサイクルの導入、の3本柱で研究を進める。バイオ由来原料の活用やライフサイクル評価の高度化も視野に入れる。

PolMixLabは両者にとって10番目の共同研究拠点で、協力関係は1990年代にさかのぼる。今回の新拠点により、産業界と学术界の知見を融合し、持続可能な高分子材料の実用化を加速する。

(プレスリリース 4月24日付)

<https://www.michelin.com/publications/produits-et-services/nouvelle-collaboration-recherche-entreprise-gommes-du-futur>

ウーバー、仏 HysetCo に出資 パリで水素タクシー拡大へ

米配車大手ウーバー(Uber)は22日、水素燃料車サービスを展開する仏ハイセットコー(HysetCo)に対し、転換社債型融資を通じて出資すると発表した。ウーバーによるフランス企業への出資は初めて。両社はパリ圏を中心に、水素車を活用したタクシー・配車サービスを強化する。

ハイセットコーは車両リース、保守、保険に加え、24時間稼働の水素充填インフラへのアクセスを含む包括サービスを提供する。現在、約800台の水素燃料車を運用し、累計走行距離は9,000万キロメートルに達する。今回の提携により、同社のタクシー事業者はウーバーの配車プラットフォームを利用可能となり、需要の高い乗客基盤へのアクセスが拡大する。事前に料金や目的地を把握できる機能も活用できる。

ウーバーは同社の車両とインフラを活用し、配車サービスの脱炭素化を加速する。法人向けサービス「ビジネスタクシー」では、2026年末までに水素車比率が約2割に達する見通し。今後5年間で約2,000台の高級水素タクシーを段階導入し、環境対応と高品質を両立した移動サービスの提供を目指す。

(power-to-x.de 4月22日付)

<https://power-to-x.de/uber-und-hysetco-wollen-in-paris-2-000-brennstoffzellenfahrzeuge-betreiben/>

BMW、電池セル生産に AI 活用 試験工程を半減へ

独自動車大手BMWグループ(BMW Group)は、クロアチアのザグレブ大学(University of Zagreb)と共同で、電池セル生産に人工知能(AI)を活用する研究を進めている。共同プロジェクト「Insight」では、試験データと生産現場のリアルタイムデータを統合し、セル工程や性能を予測するAIモデルを開発する。

同モデルにより、従来必要だった試験の期間と回数を大幅に削減できる見通しで、工程ごとの資材使用量や処理時間も50%以上削減できる可能性がある。さらに、試験工程の簡素化にとどまらず、生産後プロセスの見直しにもつながる。

電池セルは通常、初回充電後にバッテリーケースへ組み込む前、一定温度下で保管する「クアランティン(隔離)」工程を経る必要がある。AIによって性能評価を事前に完了できれば、この工程を将来的に省略できる可能性がある。

同プロジェクトは2024年に開始した。ザグレブ大学は最新の研究成果を提供し、学生は理論を実務に応用する機会を得る。BMWはデータ駆動型の生産最適化を通じ、電池製造の効率化と品質向上を図る。

(プレスリリース 4月20日付)

<https://www.press.bmwgroup.com/deutschland/photo/detail/P90636272/Im-gemeinsamen-Forschungsprojekt-Insight-entwickeln-BMW-Group-und-Universit%C3%A4t-Zagreb-praxistaugliche>

SKF、ソブリン AI 基盤に参画 設計データ保護と産業 AI 活用を両立

スウェーデン軸受大手SKF(SKF)は4月30日、同国の人工知能(AI)企業スフェリカルAI(Spherical AI)と戦略提携し、欧州主導の「ソブリンAI」基盤に参画すると発表した。国内に高性能AIスーパーコンピューターの専用計算能力を確保し、機密性の高い設計・シミュレーションデータを域内で保護しながらAI活用を加速する。

スフェリカルAIは、英製薬大手アストラゼネカ(AstraZeneca)、通信機器のエリクソン(Ericsson)、防衛・航空のサーブ(Saab AB)、金融のSEB (Skandinaviska Enskilda Banken)、投資会社ウォレンバーク・インベストメンツ(Wallenberg Investments)が共同設立した企業で、安全性と高性能を両立する独自のAI計算基盤の構築を進める。欧州ではデータ主権や安全保障の観点から域内AIインフラの整備が重要課題となっている。

SKFは提携により、クラウド戦略を補完しつつ、予知保全や品質管理、摩擦・摩耗・潤滑(トライボロジー)に基づく機械学習、設計最適化などでAI活用を拡大する。研究開発の効率化と付加価値創出を図るとともに、長年蓄積した知的財産の保護も強化する。

リック・グスタフソン最高経営責任者(CEO)は、AIが産業競争の在り方を変革しつつあると指摘し、安全性と持続可能性を重視した技術戦略の重要性を強調した。

(プレスリリース 4月30日付)

<https://www.skf.com/in/news-and-events/news/2026/2026-Apr-30-skf-commits-to-a-sovereign-ai-future-through-strategic-partnership-with-spherical-ai>

クロアチアに 500 億ユーロの AI データセンター 米パンテオンが建設

米投資グループのパンテオン・アトラス(Pantheon Atlas)は4月28日、クロアチア中部トプスコで大規模AIデータセンター計画「パンテオンAI」を発表した。投資額は同国史上最大の500億ユーロで、欧州における米民間投資としても最大級となる。

同計画は、ハイパースケール型データセンターとイノベーションキャンパスで構成する。総容量は1ギガワット(GW)、IT負荷は800メガワット(MW)。2027年初頭に着工し、2029年1~3月期の稼働開始を目指す。雇用創出は約1,500人を見込む。

データセンターは最高水準の信頼性規格「Tier IV」に準拠し、米エヌビディア(NVIDIA)のAIインフラ基準「NVIDIA GW Scale AI Factory」に適合する設計とする。使用電力は全て再生可能エネルギーで賄う計画。通信面では、欧州連合(EU)域内の主要3回廊を横断する4系統の独立光ファイバールートを確認し、冗長性と低遅延を両立する。

欧州ではAI需要の急増に対し、電力接続や用地制約からデータセンター容量不足が課題となっている。パンテオン・アトラスは資本力と技術を背景にこれらの制約解消を図り、クロアチアを中東欧のデジタル拠点へ引き上げる方針だ。

(energy-storage.news 4月30日付)

<https://www.energy-storage.news/us-investors-e50-billion-hyperscaler-data-centre-in-croatia-will-be-fully-supplied-by-btm-solar-and-batteries/>

シンテック HPC、ブルガリアに初の欧州データセンター AI 需要取り込み

米高性能コンピューティング企業シンテックHPC (Synteq HPC、旧クランチビットズ=Crunchbits)は4月23日、ブルガリアの首都ソフィアでデータセンター (DC)を開設したと発表した。同社にとって欧州初の拠点で、欧州連合(EU)域内の顧客に低遅延アクセスとデータ主権に対応したサービスを提供する。立地はコスト競争力と地理的優位性を踏まえ選定した。投資額は非公表。

同社は過去1年間で、計算能力やストレージ、ネットワークを含む基盤インフラを10倍以上に拡張した。急増する人工知能(AI)向け需要に対応するため、学習や推論、科学技術計算に適した高性能環境を整備している。

新拠点では、米半導体大手エヌビディア(NVIDIA)の次世代GPUアーキテクチャ「ブラックウェル(Blackwell)」を採用した最新チップを大規模に導入。演算性能とエネルギー効率の両面で競争力を高める。欧州域内でのデータ処理ニーズの高まりを背景に、AIインフラ事業の拡大を図る。

(morningstar.com 4月23日付)

<https://www.morningstar.com/news/pr-newswire/20260423ph42193/crunchbits-rebrands-to-synteq-hpc-launches-operations-in-dallas-and-sofia-datacenters-and-celebrates-10x-expansion>

番号：5861

独アレフ・アルファとコヒアが合併へ 欧州主導 AI で米依存脱却狙う

独AI新興アレフ・アルファ (Aleph Alpha) とカナダのコヒア (Cohere) は4月24日、ベルリンで記者会見を開き、合併計画を発表した。両国のデジタル担当閣僚が同席し、欧州主導の「安全で主権的なAIモデル」の確立を目指す方針を示した。独政府は米IT大手への依存低減につながる動きとして期待を寄せる。

アレフ・アルファは2019年設立。当初は大規模言語モデルの開発に注力したが、資金面で米大手に劣り、現在は複数AIを連携させるオーケストレーション基盤や業界別アプリに軸足を移している。評価額は約4億5,000万ユーロ (約2年半前)。一方、同年創業のコヒアはデータ安全性を重視する独立系AI企業で、業界特化型モデルを展開し、売上高は約2億4,000万ドル、評価額は約68億ドルに達する。

新会社はコヒアが主導し、出資比率は約9割をコヒア、約1割をアレフ・アルファが占める見通し。独小売大手シュヴァルツ・グループ (Schwarz Gruppe) のデジタル子会社シュヴァルツ・ディジッツ (Schwarz Digits) が出資し、自社クラウドでAIソリューションを提供する。

欧州ではデータ主権や安全保障への懸念が強まり、米企業サービスへの依存が課題となっている。今回の統合はこうした背景のもとで進められた。独デジタル相カルステン・ヴィルトベルガー (Karsten Wildberger) 氏は、デジタル主権を公共調達的重要基準と位置付け、新会社の活用可能性に言及した。

(ZDF 4月24日付)

<https://www.zdfheute.de/politik/kuenstliche-intelligenz-fusion-cohere-partnerschaft-100.html>

番号：5862

オムロンとダッソー、仮想ツイン連携 AI 主導の次世代工場を構築

産業オートメーション大手オムロン (Omron) と仏ソフト大手ダッソー・システムズ (Dassault Systèmes) は4月21日、製造現場の高度化に向けた戦略提携を発表した。ダッソーの仮想ツイン技術とオムロンのオートメーション技術を統合し、仮想空間と実生産ラインを連携させたAI主導の柔軟で効率的な工場の実現を目指す。

従来は製品設計、設備制御、製造工程が分断され、立ち上げ遅延やエラー増加の要因となっていた。新たな仕組みでは、仮想空間上の3次元モデルで生産ラインやロボットの動作を事前に検証し、実機導入前に課題を把握する。導入後も現場のセンサーや制御装置から取得したデータを仮想モデルに反映し、実際の稼働状況との比較・最適化を行う。

これにより異常の予兆検知や保全の高度化が可能となり、コスト削減と稼働率向上につながる。両社はIT (情報技術) とOT (制御技術) の融合を進め、AIを活用したソフトウェア定義型製造への移行を加速する方針だ。

(プレスリリース 4月21日付)

<https://industrial.omron.eu/en/news-discover/news/dassault-systemes-partnership>

フラウンホーファー IGCV、異材 AM でロケット部品開発 マルチ材料化を加速

独フラウンホーファー生産技術・鋳造研究所(Fraunhofer IGCV)は、ロケット推進系部品向けに異材一体型の積層造形(AM)技術を開発している。レーザー粉末床溶融(LBM)を用い、複数の金属粉末を同時に溶融・積層することで、機能統合型部品の製造を可能にする。

実証では磁性鋼と非磁性鋼を組み合わせたバルブ部品を造形し、切削や溶接を代替する工程統合を達成した。設計変更を迅速に反映でき、開発リードタイムの短縮も確認された。

一方、異材界面の品質確保が課題となる。ベルギーのルーヴェン・カトリック大学(KU Leuven)との共同研究では、チタン合金とニッケル合金の接合で生じる脆性相に対し、モリブデン中間層を導入して安定化に成功した。粉末組成設計や界面制御技術の重要性が高まっている。

さらに、混合粉末を磁気分離で再利用する技術や、サーモグラフィーとセンサーによるリアルタイム監視・閉ループ制御も開発中で、粉末特性と造形品質の一体管理を進める。

本研究は約3,800万ユーロの支援を受け、アリアングループ(ArianeGroup)などと連携して推進する。宇宙用途を起点に、航空機やエネルギー分野への展開も見込む。金属粉末分野では、単一材料から用途別に最適化したマルチマテリアル対応への移行が進む見通しだ。

(foundry-planet 4月21日付)

<https://www.foundry-planet.com/d/fraunhofer-igcv-is-driving-forward-multi-material-3d-printing-for-rocket-propulsion-systems/>

ユニパー、水素輸入ターミナルで容量受付開始

独ユニパー・ハイドロジェン(Uniper Hydrogen)は5月、ニーダーザクセン州ウィルヘルムスハーフェンで計画する水素輸入ターミナルについて、容量受付(Open Season)を開始した。アンモニアを水素キャリアとして輸入し、大型アンモニアクラッカーで水素を分離する。生成した水素は独水素コアネットワークへ直接注入する計画だ。

年間輸入能力は最大260tのアンモニアで、年間約35tの水素製造を見込む。アンモニアを鉄道輸送する積み替え設備も整備し、水素輸入と国内輸送を組み合わせた大規模供給拠点と位置付ける。

容量割当は2段階で進める。第1段階では需要家が必要容量を申請し、参加費を支払う。ユニパーは審査後、容量予約を通知する。第2段階では利用契約の主要条件を提示し、参加企業と契約内容を詰める。契約締結後に正式予約が成立する。申請期限は2026年6月15日23時59分(MESZ)で、参加企業はKYC(本人・信用確認)書類を電子メールで提出する。

同ターミナルは、旧石炭火力発電所跡地で進める「グリーン・ウィルヘルムスハーフェン(Green Wilhelmshaven)」構想の一部である。同構想には段階的に拡張する水電解設備も含まれ、最終的に電解能力1ギガワット(GW)、年間約10tの水素製造を目指す。ウィルヘルムスハーフェンはドイツ唯一の北海深水港で、大型タンカーの受け入れやエッツェル地下水素貯蔵基地への接続性を強みとする。

(h2-news.de 5月18日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/uniper-startet-kapazitaetsvergabe-fuer-wasserstoff-importterminal-wilhelmshaven/>

ウーバー、パリで水素タクシー拡大 仏ハイセットコに出資

米配車大手ウーバー (Uber) と仏水素モビリティ企業ハイセットコ (Hyssetco) は4月末、パリで水素タクシーの導入を拡大する提携を結んだ。ウーバーは転換社債型融資を通じてハイセットコを資金支援する。対象は法人向けサービス「Uber for Business」の「Business Taxi」で、2026年末までに同カテゴリーの車両の約20%を水素燃料電池車とする計画だ。

両社は今後5年間で、ハイセットコが保有する最大2,000台の水素タクシーをウーバーの配車プラットフォームに統合する。利用者はアプリ上で水素タクシーを直接予約でき、料金や目的地情報も事前に確認できる。

ハイセットコはイル・ド・フランス地域で水素車両のリース、運行管理、水素ステーション運営を手がける。現在はタクシーや法人車両を中心に800台超の水素車が稼働し、2021年以降の累計走行距離は9,000万キロメートルに達した。

今回の提携は、車両供給に加え、水素供給インフラとデジタル配車基盤を組み合わせる点に特徴がある。電気自動車(EV)中心だった都市交通の脱炭素化に対し、高稼働の業務用モビリティに水素燃料電池車を適用する動きとして注目される。ウーバーにとっては、フランス企業への初の投資案件となる。

(h2-news.de/ 5月18日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/uber-investiert-in-ausbau-von-wasserstoff-taxis-in-paris/>

独フォトレオン、太陽光と水だけで水素生成 光触媒パネルを開発

独カールスルーエのスタートアップ、フォトレオン (Photreon) は、太陽光と水のみを用いて水素を直接生成する光触媒型フォトリアクターパネルを開発した。外部電力や電解装置を使わずに水素を製造できる点が特徴で、低コストかつ拡張性の高い水素製造技術として事業化を進める。フォトレオンは、カールスルーエ工科大学 (KIT) のマイクロプロセス工学研究所 (IMVT) 発スタートアップである。

同技術は、太陽光を電力へ変換する一般的な太陽電池と異なり、光エネルギーを直接化学反応へ利用する「光触媒 (Photokatalyse)」を採用する。特殊な光活性材料が太陽光を吸収して励起電子を発生させ、水を水素と酸素へ分解する仕組みだ。これにより、従来必要だった太陽光発電設備と水電解装置を単一工程へ統合できる。フォトレオンは、設備コストとシステム構成の複雑性を大幅に低減できるとしている。

試作機は1平方メートルサイズで、水素生成の実証を完了した。反応器は光輸送、化学反応、生成ガス排出を最適化した構造を採用する。量産を前提に設計されており、一般的な大量生産プロセスと低コスト材料で製造可能という。モジュール構造のため、小規模分散用途から大規模プラントまで柔軟に拡張できる。

用途としては、水素供給コストや物流制約が大きい分野を想定する。特殊化学、食品、金属加工などの中堅企業が工場内で直接水素を製造する分散型用途を狙うほか、電力網や水素パイプラインが未整備の地域における大規模太陽光水素プロジェクトへの展開も視野に入れる。

(power-to-x.de/ 5月14日付)

<https://power-to-x.de/photreon-entwickelt-photoreaktorpaneel-fuer-die-direkte-solare-wasserstoffherzeugung/>

ダイムラー・トラック、川崎重工などと液体水素供給網構築へ 欧州製造業向け展開も視野

商用車大手の独ダイムラー・トラック (Daimler Truck) は11日、川崎重工業と独エネルギー流通事業者MBエナジー (MB Energy) との間で、液体水素 (LH2) の国際サプライチェーン構築に向けた協業合意を締結したと発表した。生産国から独ハンブルク港を経由して欧州へLH2を輸送し、水素燃料電池トラック向けを中心に供給体制を整備する。

3社は、ダイムラー・トラックが2030年代初頭に計画する水素燃料電池トラックの量産開始に合わせ、商業ベースでのLH2供給網の立ち上げを目指す。川崎重工は、水素液化機やLH2運搬船、LH2貯蔵タンクなど、国際水素サプライチェーンに必要な中核技術を提供する。一方、MBエナジーはエネルギーインフラや補給ネットワーク、流通分野での知見を担う。

MBエナジー新エネルギー・貯蔵・インフラ部門のフォルカー・エーベリング氏は、「液体水素の信頼性あるサプライチェーン構築は、エネルギー安定供給と持続可能性の双方を強化する」と述べた。

3社はまずダイムラー向けの供給体制整備を進め、その後は欧州域内の幅広い製造業への展開も視野に入れる。大型輸送分野では長距離用途を中心に水素需要の拡大が見込まれており、液体水素の大量輸送・貯蔵インフラ整備が普及の鍵になるとみられる。

川崎重工とダイムラー・トラックはこれまでも水素供給網構築に関する複数の基本合意を締結しており、今回の3社協業はその取り組みを具体化する位置づけとなる。

(プレスリリース 5月11日付)

<https://www.mbenergy.com/en/news/mb-energy-daimler-truck-and-kawasaki-heavy-industries-signed-agreement-to-develop-liquefied-hydrogen-supply-chain-to-europe-via-hamburg>

エーオン・エナジー・ルーマニア、5年で1.2億ユーロ投資 PPAやEV充電事業を拡大

独エネルギー大手エーオン (E.ON) のルーマニア子会社エーオン・エナジー・ルーマニア (E.ON Energie Romania) は、今後5年間で約1億2,000万ユーロを投資する計画を明らかにした。現地英字紙『ビジネスレビュー』が12日に報じた。太陽光発電やヒートポンプ、エネルギー効率化、電気自動車 (EV) 充電インフラなどのエネルギーソリューション事業を強化し、顧客の省エネとエネルギーコスト削減需要を取り込む。

投資額のうち約67%に当たる8,000万ユーロは、電力購入契約 (PPA) 関連システムの開発に充てる。企業向け再生可能エネルギー調達需要の高まりを背景に、同部門の2025年売上高は前年比17%増の1億ユーロとなり、初めて1億ユーロ台に乗せた。

同社のエネルギーソリューション事業はルーマニア国内で拡大が続いており、2025年末時点の契約件数は11万件に達した。家庭用暖房・冷房分野では、10万世帯超が同社の凝縮ボイラー (コンデンシングボイラー) やヒートポンプ、高効率エアコンシステムを導入している。

EVインフラ事業も拡大している。一般向け充電スタンドの設置数は670基を超え、ルーマニア国内のEV普及を支えるインフラ整備を進める。欧州では建物の省エネ化や電化政策を背景に、電力小売会社が再生可能エネルギーや分散型エネルギーサービスへ事業領域を広げる動きが加速している。

(business-review.eu 5月12日付)

<https://business-review.eu/energy/e-on-energie-romania-to-invest-eur-120-million-in-photovoltaics-heat-pumps-and-e-mobility-over-5-years-296176>

オペル、中国リープモーターと BEV 共同開発 2 年未満で C セグ SUV 投入へ

欧米自動車大手ステランティス(Stellantis)傘下の独オペル(Opel)は8日、中国の電動車新興リープモーター(Leapmotor)の協力を受け、電気自動車(BEV)を共同開発すると発表した。中国メーカーの迅速な開発力と低コスト調達力を活用し、競争が激化するCセグメントSUV市場向けに新型BEVを投入する。2028年上半期の公開、同年中の生産開始を目指す。

今回の協業は、ステランティスとリープモーターが進めるグローバル協業拡大の試金石と位置付けられる。開発期間を2年未満に短縮し、中国勢が強みとするスピード開発を欧州ブランド車へ取り込む狙いだ。

オペルは現在、欧州市場で需要の大きいCセグメントSUV分野で車種不足を抱えており、その空白を埋める戦略モデルとして新型BEVを投入する。設計は独リュッセルスハイム本社が担い、独中両国の開発チームが共同で開発を進める。

車両には、リープモーターの最新E/Eアーキテクチャー(電気・電子アーキテクチャー)と電池技術を採用する。一方で、デザインや乗り心地、シャシー制御では「オペルらしさ」を維持し、ドイツ車としての商品性を打ち出す方針だ。

ステランティスの最高人事・サステナビリティ責任者(CHRO兼CSO)であるグザヴィエ・シェロー監査役会長は、「オペルが目指すのは、ドイツの卓越したエンジニアリングと、グローバルな技術革新スピードの融合だ」と述べた。

生産はドイツではなく、スペイン・サラゴサのステランティス工場で行う。人件費を含む製造コストを考慮した措置とみられる。オペルのフロリアン・フットル社長は、リープモーターとの協業を通じ、中国サプライチェーンへのアクセスを強化し、低コストで部品調達できる体制を整える考えを示した。

(wiwo.de 5月8日付)

<https://www.wiwo.de/unternehmen/auto/neuer-elektro-opel-opel-baut-gemeinsames-elektro-suv-mit-leapmotor/100223512.html>

パワーエックス、モンテネグロ電力公社と提携 3年で500MWhの蓄電設備供給

蓄電システム(BESS)プロバイダーのパワーエックス(PowerX、本社・岡山県)は8日、モンテネグロ国営電力会社EPCG(Elektroprivreda Crne Gore)と戦略協定を締結したと発表した。今後3年間で約500メガワット時(MWh)の蓄電容量を供給し、同国で進む再生可能エネルギー導入拡大と電力システムの安定化を支援する。

モンテネグロ政府は2030年までに、最終エネルギー消費に占める再生可能エネルギー比率を50%超へ引き上げる目標を掲げている。国営電力会社EPCGは電力網の近代化と再エネ統合を進めており、蓄電システムをその中核技術と位置付ける。

今回の提携では、両社が共同でBESS導入計画を策定する。対象には、系統信頼性の向上に加え、電力需要ピーク時の負荷を平準化するピークシェービングや、周波数調整サービスへの対応が含まれる。導入後の保守・アフターサービスはパワーエックスが一貫して担う。

パワーエックスは、モンテネグロを欧州市場展開の足掛かりと位置付けている。将来的には同国でのBESS組立拠点設立も検討しており、欧州域内での供給体制強化につなげる考えだ。

欧州では再エネ比率の上昇に伴い、電力需給変動を吸収する大規模蓄電設備への需要が急拡大している。特に南東欧地域では送電網更新と再エネ導入が並行して進んでおり、BESSは電力インフラ強化の重要技術として注目されている。

(.prnewswire.com 5月8日付)

<https://www.prnewswire.com/news-releases/powerx-signs-mou-with-montenegros-national-utility-epcg-for-strategic-cooperation-on-battery-energy-storage-302767516.html>

ZF、商用車向け電動化技術を披露 ハイブリッド変速機や電動駆動を展示

自動車部品大手ZFフリードリヒスハーフェン(ZF Friedrichshafen)は8日、イタリア・ミラノで開催される商用車・モビリティ展示会「Transpotec Logitec/Next Mobility Exhibition」(5月13~16日)で、商用車向けの最新電動化・安全技術を展示すると発表した。物流・旅客輸送分野における脱炭素化や運行効率向上、運用コスト削減を支援する包括的なソリューションを紹介する。

注目技術の一つが、トラック向けハイブリッド変速機「TraXon 2 Hybrid」である。エンジンと変速機の間には電動モーターを配置する構造を採用し、既存車両プラットフォームへの改修を最小限に抑えながらハイブリッド化を可能にした。ZFによると、VECTOシミュレーションでは、長距離輸送用途で最大47%、都市配送用途で最大73%の二酸化炭素(CO2)排出削減効果が見込まれる。

電動化分野では、大型トラックや長距離バス向け電動セントラルドライブ「CeTrax 2 dual」も披露する。電動モーター、インバーター、制御電子機器、多段変速機を一体化したコンパクト設計を採用し、高効率かつ高出力を実現した。ゼロエミッション長距離輸送を支える中核技術として提案する。

また、HV(ハイブリッド車)やEV(電気自動車)の高トルク需要に対応した新型リア駆動アクスル「A134」も展示する。既存の搭載ポイントを維持しつつ効率を高め、多様な駆動システム構成に対応可能とした。

安全技術では、トレーラー向け電子制御ブレーキシステム「iEBS」を中心に、駐車制御機能「PRV」、タイヤ空気圧監視システム「OptiTire」、後退時衝突回避システム「TailGUARD」を統合したソリューションを紹介する。車両の制動性能や走行安定性、安全性を高めるとともに、車両稼働率向上や運行コスト低減につなげる。

このほか、車両診断システム「ZF Scan」、クラウド対応整備支援システム「ZF [pro]Diagnostics」、フリート管理基盤「SCALAR」などのデジタルサービスも展示する。

(プレスリリース 5月8日付)

https://press.zf.com/press/en/releases/release_102656.html

スウェーデンのアトリムス Rx、3D プリンターで患者別医薬品製造 小児向け個別投与に対応

スウェーデンの医療技術スタートアップ、アトリムスRx(AtrimusRx)は、3Dプリンターを活用した患者別医薬品製造システムを開発した。積層造形(AM)技術を医薬品調製工程へ組み込み、患者ごとの用量や剤形に対応する。特に小児医療では、既存の標準錠剤やカプセルが適合しないケースが多く、精密な用量調整が課題となっている。

従来は錠剤の分割や粉碎、カプセル開封などにより投与量を調整していた。しかし、こうした方法は投与精度の低下や介護者、薬局側の作業負担増加につながっていた。アトリムスRxは、患者の年齢や体重、処方量に応じた剤形を最初から製造することで対応する。

同社の「Atrimus Px」システムは、2ミリグラムからの微量投与に対応し、低用量域では0.25ミリグラム単位で調整可能という。治療域が狭い薬剤や段階的な増減投与への適用を想定する。複数薬剤を1錠へ統合する「ポリピル」設計にも対応できるとしている。

技術面では、3Dプリンティングによる高精度な積層制御が中核となる。従来製薬と比べて柔軟な剤形設計が可能で、個別化医療との親和性が高い。獣医用途では、動物種ごとに味や投与量を最適化する応用も進める。

同社は、分散型製薬が供給網の強靱化にも寄与するとみる。欧州の「RoboPharma」プロジェクトにも参画し、ロボット調剤、人工知能(AI)解析、自動薬局システムと連携した地域分散型生産を検討する。医薬品不足や危機時の補完供給インフラとしての活用も視野に入れる。

(3druck.com 5月15日付)

<https://3druck.com/en/medicine-2/atrimusrx-uses-3d-printing-for-patient-specific-drugs-29157364/>

蘭 K3D、金属 AM 設備を増強 MetalFab 導入 6 基体制へ

オランダの金属積層造形(AM)受託企業K3Dは、オランダのAM装置メーカー、アディティブ・インダストリーズ(Additive Industries)製「MetalFab」システムを2基追加導入した。これにより同社のMetalFab設備は計6基となり、2拠点で計9基の造形コアを運用する体制となった。対応材料はステンレス鋼316L、アルミニウム合金AlSi10Mg、チタン合金Ti6Al4Vなどである。

K3Dは2016年、製パン設備大手ロイヤル・カーク(Royal Kaak)傘下企業として設立された。同年にアディティブ・インダストリーズ製MetalFab初号機を導入し、食品業界向け部品製造を開始した。現在は航空宇宙、自動車、工具、エネルギー、防衛分野へ事業領域を拡大している。

今回導入した設備には、単一コア型「MetalFab 300 Flex」から、完全自動化対応「MetalFab G2 Continuous Production」までが含まれる。大型部品だけでなく、小型部品の量産にも対応する。K3Dによると、自動化MetalFabシステムでは過去数年間で最大95%の稼働率を達成したという。

同社は後処理設備や技術コンサルティング体制も強化している。最近では累計100万個目の金属AM部品生産を達成した。欧州で金属AMの量産適用が拡大していることを示す事例となる。

アディティブ・インダストリーズのリック・バックャーCEOは、2016年に導入した初号機が現在も量産部品を継続生産している点を強調した。K3Dは、欧州有数の金属AM量産事業者としての存在感を強めている。

(.additiveindustries.com 5月14日付)

<https://www.additiveindustries.com/news/news-and-press/k3d-announce-further-expansion-of-am-production-capacity-with-metalfab-technology>

独エレクトロン、57 百万ユーロ調達 量子計算の量産・産業化を加速

量子コンピューター新興の独エレクトロン(eleQtron)は5日、シリーズA資金調達ラウンドで総額5,700万ユーロを調達したと発表した。調達には既存投資家に加え、新規投資家も参加した。同社はすでに5,400万ユーロ規模の受注を確保しており、開発強化に加え、生産能力拡張にも資金を投じる方針だ。

ヤンヘンリック・ライッセ最高経営責任者(CEO)は、「量子コンピューティングは研究技術から産業利用可能なインフラへ移行しつつある。今回の資金調達により、製造業顧客が抱える具体的課題を解決するシステム構築を加速する」と述べた。

エレクトロンは、独ギーセン大学からのスピンオフとして2020年に設立された。真空中で電磁場を利用して原子を捕捉・冷却し、その内部状態を量子ビットとして活用する「イオントラップ型量子コンピューター」を開発している。イオントラップ方式は高精度な量子制御が可能とされ、材料開発や物流最適化、化学シミュレーションなど産業用途への応用が期待されている。従業員数は100人を超える。

今回の資金調達には、独小売大手シュヴァルツ・グルッペ(Schwarz Gruppe)のデジタル子会社シュヴァルツ・ディジッツ(Schwarz Digits)が主導した。欧州連合(EU)の欧州イノベーション会議(EIC)基金も参加した。

欧州では量子分野の基礎研究力は高い一方、商業化や量産展開では米国勢に後れを取るとの指摘がある。EUは、量子計算や半導体、AIなど戦略技術への投資を通じ、産業競争力とデジタル主権の強化を進めており、エレクトロンへの支援もその一環と位置付けられる。

(プレスリリース 5月5日付)

<https://eleqtron.com/quantencomputing-scale-up-eleqtron-schliesst-eine-der-weltweit-groessten-series-a-finanzierungen-ueber-57-mio-euro-ab/>

ピレリ、スウェーデン AI 企業と提携 タイヤデータと画像認識で道路監視強化

伊タイヤ大手ピレリ(Pirelli)は4月29日、人工知能(AI)による画像認識技術を開発するスウェーデンのAI企業ユニヴァーシズ(Univrses)と提携したと発表した。タイヤセンサーと車載カメラを組み合わせ、道路インフラ監視や自動運転向け機能を強化する。ピレリはユニヴァーシズ株式の30%を取得し、将来的に過半数を取得できるオプションも確保した。

ユニヴァーシズは、自動運転向けに3次元位置認識や空間解析を行うAIソフトを開発している。車載カメラ映像から道路や周辺インフラをデジタル化し、車両が周囲環境をリアルタイムで把握できるようにする技術を持つ。

今回の協業では、同社のAI画像解析技術をピレリの「Cyber Tyre (サイバータイヤ)」システムに統合する。サイバータイヤは、タイヤ内部センサーから取得したデータを独自ソフトで解析し、車両やクラウドへリアルタイム送信する技術で、タイヤ状態や路面状況を高精度で把握できる。

両社は、タイヤから得られる摩擦や振動データとカメラ映像を組み合わせ、道路の損傷や劣化を検知する仕組みを構築する。道路管理当局は補修が必要な箇所を迅速に把握でき、インフラ維持管理の効率向上につながるとみられる。事故リスク低減や自動運転車の安全性向上にも寄与する可能性がある。

両社はすでに2025年から、イタリア南部プーリア州で共同実証を進めている。地域道路網を対象に、走行車両から収集したデータを基に道路状態を可視化し、最新のインフラマップを生成している。自動車業界では、車両センサーを活用した道路データ収集やクラウド連携による「走るインフラ監視網」の構築が進みつつある。

(プレスリリース 4月29日付)

<https://press.pirelli.com/pirelli-and-univrses-signed-a-partnership-to-enhance-cyber-tyre-technology-by-integrating-the-swedish-companys-ai-based-computer-vision-systems/>

エニと FIB、LFP 電池の欧州サプライチェーン構築へ 2029 年に 8GWh ギガファクトリー

イタリア石油・ガス大手エニ(Eni)傘下のエニ・インダストリアル・エボリューション(Eni Industrial Evolution)と、セリ・インダストリアル・グループ傘下のFIBは、リン酸鉄リチウム(LFP)電池の統合サプライチェーン構築に向けた提携契約を締結した。欧州で需要拡大が見込まれる定置用蓄電池市場を主なターゲットとし、電池セルから蓄電システムまでの一貫生産体制を整備する。

計画では、LFP電池セルおよびモジュールの生産に加え、系統用・産業用の蓄電システム組立事業を展開する。将来的には電池リサイクルや材料回収、正極活物質の製造にまで事業領域を拡大する方針で、産業車両や商用向け電動モビリティ用途も視野に入れる。

FIBは南イタリア・カゼルタ県テヴェローラ工場で既にLFPセル生産を行っており、同拠点の生産能力を拡大する。両社の合弁会社「エニ・ストレージ・システム(Eni Storage System)」は2027年前半までに、テヴェローラおよびプリンディジ拠点で大規模蓄電システム(BESS)向け組立ラインを完成させる計画だ。さらに2029年までに年間8GWh超の生産能力を持つ第2ギガファクトリーを建設し、欧州定置用蓄電池市場でのシェア10%超獲得を目指す。

資本面では、エニ・インダストリアル・エボリューションがFIB新設会社の株式30%を5,500万ユーロ(固定部分)で取得し、FIBが70%を保有する。新会社は営業開発、調達、エンジニアリングを担う。今回の提携は、欧州が進める電池サプライチェーンの域内構築とエネルギー貯蔵設備の拡充を後押しする取り組みとして注目される。

(battery-news.de 6月1日付)

<https://battery-news.de/2026/06/01/eni-und-seri-industrial-planen-lieferkette-fuer-stationaere-batteriespeicher/>

クエスト・ワン、屋外設置型 PEM 水電解システムを投入 建屋不要で導入期間短縮

独水電解装置メーカーのクエスト・ワン(Quest One)は、PEM(固体高分子膜)方式の大規模水電解プラットフォーム「MHP(Modular Hydrogen Platform)」に屋外設置型(Outdoor Variant)を追加した。製油所や化学プラント向けを主な対象とし、建屋建設を不要にすることで設備投資と導入期間の削減を図る。水素プロジェクトの大型化が進む中、設置の柔軟性向上によって市場拡大を狙う。

新たな屋外型は、水電解設備専用の建屋を必要とせず、換気設備や防火設備への追加投資も抑制できる点が特徴である。これによりプロジェクトの複雑さを低減し、計画から稼働までの期間短縮が期待される。特に敷地に制約のある工場や建築規制の厳しい地域での導入を想定している。

同社は併せてMHPのシステム機能も拡充した。従来の電解装置に加え、冷却システム、給水処理設備、水素精製設備を統合。水処理技術にはコンテナ型水電解装置「ME450」で培ったノウハウを活用する。顧客側で必要となる周辺設備との統合作業を減らし、設計やエンジニアリング負担の軽減につなげる。

MHPは電源設備や水処理設備を含む10MWモジュールを組み合わせる構成で、100MW超の大規模水電解プラントに対応する。システム効率は最大77%。スキッド(架台)ベース設計を採用しており、既存の工業施設への組み込みや現場条件への柔軟な対応が可能である。また、設計・試運転から運転保守までを対象とするサービス・保証プログラムも提供する。アウクスブルク本社にはMHPの実証設備を設置しており、産業規模の水電解システムの運転状況を通年で見学できる。

(h2-news.de 5月29日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/pem-elektrolysesystem-jetzt-als-outdoor-variante-erhaeltlich/>

核融合スタートアップの独フォーカスト・エナジー、シリーズAで2.4億ドル調達

— 核融合分野で世界最大規模

ドイツの核融合スタートアップ、フォーカスト・エナジーは27日、シリーズAの資金調達ラウンドで総額2億4,000万ドルを確保したと発表した。同社によると、核融合分野のシリーズAとしては世界最大規模だ。

同社は2021年、ダルムシュタット工科大学のスピノフとして設立された。超高出力のレーザー光を特殊な燃料に照射して核融合反応を引き起こす「レーザー核融合」技術を開発している。

調達には独エネルギー大手RWE、独連邦飛躍的イノベーション機構(SPRIND)、EU欧州イノベーション会議(EIC)基金、ヘッセン州政府、米ベンチャーキャピタルのプライム・ムーバーズ・ラブなどが参加した。

共同設立者のトーマス・フォルマー最高経営責任者(CEO)は「核融合エネルギーはドイツと欧州で新たな時代を迎える。科学的な強みと産業の実力、政府の核融合支援策(ハイテク・アゲンダ)を産業的な価値創出に結びつけることが重要だ」と述べた。

フォーカスト・エナジー、RWE、ヘッセン州政府は昨年3月、同州をレーザー核融合研究の先進地域として発展させる基本合意を締結している。構想の中核は、廃炉となったビブリス原発跡地を「核融合キャンパス」として再活用する計画だ。同跡地には電力・鉄道・道路インフラが残存しており、実験炉から原型炉、実証炉を段階的に整備して商業炉の実現につなげる方針だ。今回調達した資金のほぼ全額を同跡地の開発に充てる。同社は同プロジェクトを「核融合技術の産業的スケール化の青写真」と位置づけている。

(focus 5月27日付)

https://www.focus.de/earth/kernfusion-hessen-startup-focused-energy-sammelt-240-millionen-euro-ein-akw-biblis_af8986c6-c8b0-494b-ab6d-54f6b3ec4851.html

オルレン、HVOの生産開始 — バイオ燃料能力 70万トンに

ポーランドの石油・エネルギー大手オルレンは27日、プウォツク石油化学工場で水素化植物油(HVO)の生産を開始したと発表した。年産能力は30万トンで、菜種油や使用済み食用油(UCO)などを国内調達して次世代バイオ燃料を製造する。投資額は約8億ズロチ(約1億8900万ユーロ)。

HVOは一般的なディーゼル燃料に比べ温室効果ガス排出量を65%以上削減できるとされる。今回の稼働によりオルレングループ全体のバイオ燃料生産能力は年間約70万トンに拡大し、同社は2030年までに110万トンへ引き上げる方針だ。

既存のディーゼル油水素化脱硫装置(HDS)も改修し、植物油や廃食油の同時処理能力を年間10万トン以上増強した。EUの再生可能エネルギー指令「RED III」や、2026年に10%へ引き上げられるポーランドのバイオ燃料混合義務への対応を加速させる。輸入バイオ燃料への依存低減と国内農業・廃棄物資源の活用拡大も図る。

オルレンは将来的に、同設備を持続可能な航空燃料(SAF)の供給基盤としても活用する考えだ。

(プレスリリース 5月27日付)

<https://www.orklen.pl/en/about-the-company/media/press-releases/current/2026/May-2026/orklen-launches-hvo-plant-to-produce-300-thousand-tonnes-of-biofuels-annually-from-domestic-feedstocks>

ノルデックス、トルコに新ブレード工場 — 年産最大 1200 枚

独風力発電設備大手のノルデックスは22日、トルコ西部イズミル県メネメンのイズミル自由貿易区内に新設したブレード工場を生産を開始したと発表した。敷地面積は約13万平方メートル。当面はトルコ政府の再生可能エネルギー資源地域(YEKA)入札制度で採択された案件向けに供給し、将来的には欧州市場への輸出も計画する。

新工場では中～強風向けに設計した最新風力タービン「N163」「N175」用のローターブレードを生産する。新規雇用は約1,200人で、フル稼働時には4交代制で年間最大1,200枚を生産できる。

最高経営責任者(CEO)のホセ・ルイス・ブランコ氏は「メネメン工場での生産開始は、トルコにおける製造基盤強化と長期成長戦略を支える重要な節目だ」と述べた。

ノルデックスは2009年からトルコ市場で事業を展開し、現在の市場シェアは34%に達する。直近では出力90MWのR24-グルン風力発電所と160MWのイエリジェ風力発電所向け案件を受注しており、いずれもN163/6.X型風力タービンが採用される予定だ。

(renewablesnow.com 5月22日付)

<https://renewablesnow.com/news/nordex-opens-new-blade-manufacturing-facility-in-turkey-1295163/>

住友電工、独送電大手から 3600 億円の HVDC ケーブル受注 グループ史上最大の単一案件

住友電気工業は21日、ドイツの子会社スミトモ・エレクトリック・パワー・ケーブル(ヨーロッパ) GmbH (SEP-E)が、ドイツの送電大手アンプリオンから高圧直流(HVDC) XLPEケーブルの大型プロジェクト「DC35」を受注したと発表した。契約額は約20億ユーロ(約3,600億円)で、住友電工グループが受注した単一案件として過去最大となる。

DC35はドイツ国内530キロメートルのルートに沿って定格容量2ギガワット(GW)の電力を送電するプロジェクトで、「ライン・マイン・リンク」送電網の中核を担う。北海・バルト海の洋上風力発電所とドイツ北部ラシュテーデの陸上風力発電所の電力を、ライン・マイン地域のマルクスヘムまで供給する。2032年の完工を予定している。

住友電工は直流電力ケーブル2本と中性線1本、総延長約1,590キロメートル分を供給する。製造は現地子会社ズートカーベルのマンハイム工場が全量を担う。

アンプリオンからの受注は2020年と2024年に続き今回が3件目で、3件の合計受注額は5,500億円超に達する。

SEP-Eは欧州向け電力ケーブル案件の設計・調達・建設(EPC)機能と営業力を強化する目的で2025年2月に設立された。2024年に子会社化したズートカーベルと連携し、品質・納期・プロジェクト管理の最適化を通じて欧州事業の拡大を図る。

(marketscreener.com 5月21日付)

<https://www.marketscreener.com/news/sumitomo-electric-industries-secures-approx-eur-2-billion-hvdc-xlpe-cable-project-from-amprion-an-ce7f5ad9d08bf620>

番号：5882

川崎重工とギリシャのエコログが液化水素サプライチェーンで提携 蘭ロッテルダムで覚書締結

川崎重工業とギリシャのエネルギー・環境企業エコログ(EcoLog)は21日、オランダ・ロッテルダムで開催された国際見本市「ワールド・ハイドロジェン・サミット・アンド・エキシビション」で戦略提携の覚書を締結した。液化水素サプライチェーンの中流領域での協力を目的とし、調印式にはオランダ国王が出席した。

エコログはアムステルダム港で液化水素プロジェクトを推進している。同プロジェクトの具体化に向け、海上輸送・ターミナル・船陸整合などの分野で川崎重工の製品・技術を活用する。オマーン、サウジアラビア、スペイン、ブラジルなど複数の供給国から欧州の需要地への安全・安定的な水素供給を目指す。幅広い産業分野での液化水素利用の促進と、欧州のエネルギー安全保障への貢献も期待される。

エコログはLNG(液化天然ガス)の極低温貨物輸送で培った知見を持つ。液化水素運搬船と受入ターミナルのオーナー兼オペレーターとしてその経験を活かし、液化水素の供給と需要をつなぐ役割を担う。

(hydroneews.it 5月21日付)

<https://www.hydroneews.it/en/kawasaki-heavy-industries-and-ecolog-join-forces-to-create-a-liquefied-hydrogen-supply-chain/>

チェコ3機関が半導体分野で覚書 国内バリューチェーン強化と欧州拠点化を推進

チェコの半導体産業振興団体であるチェコ国家半導体クラスター(Czech National Semiconductor Cluster)、チェコ半導体センター(Czech Semiconductor Centre)、および投資誘致機関のチェコインベスト(CzechInvest)は、半導体分野での協力覚書(MoU)を締結した。3機関は、チェコ政府の「国家半導体戦略2029(National Semiconductor Strategy 2029)」とEUの「EUチップス法(EU Chips Act)」に基づき、国内半導体バリューチェーンの強化、海外投資の誘致、チェコ企業の国際サプライチェーン参入拡大を目指す。

覚書は5月19日、チェコ投資庁主催の半導体イベント「Czech Semicon Days 2026」の一環として開催されたチェコ投資フォーラムで正式に確認された。

覚書では企業・大学・研究機関・地方自治体・政府機関の連携強化を通じ、半導体産業の成長を国家経済戦略に結び付けることを重視する。新規投資案件の創出、チェコ企業の国際供給網への参入促進、研究成果の事業化加速などを具体的な施策として推進する。

EUの「チップス・フォー・ヨーロッパ・イニシアチブ(Chips for Europe Initiative)」や欧州共通重要プロジェクト(IPCEI)、今後策定される「チップス法2.0(Chips Act 2.0)」への参画強化も目指す。チェコ国家半導体クラスターはSilicon Europe AllianceやSEMIのネットワークを通じ、欧州政策との連携を支援する。

今後は海外向けプロモーションやロードショーの共同実施に加え、人材育成・再教育プログラムも展開する。AI、エネルギー網、半導体の融合といった次世代分野では、中小企業やスタートアップ、大学発ベンチャーの育成も後押しする。

チェコは伝統的に半導体研究と産業基盤を有しており、今回の連携は欧州半導体自立化政策を追い風に、同国を欧州半導体エコシステムの重要拠点へ発展させることを狙いとする。設計、研究開発、人材育成分野への投資拡大が期待される。

(czechsemiconductorcentre.cz 5月27日付)

<https://czechsemiconductorcentre.cz/cnsc-czech-semiconductor-centre-and-czechinvest-are-joining-forces-they-aim-to-strengthen-the-czech-republics-role-in-the-semiconductor-industry/>

ドイツ、デジタルID法案を閣議了承 EUDI ウォレットを来年1月から導入

ドイツ政府は20日の閣議でデジタルID法(DiDG)案を了承した。EUの欧州デジタルID規則に基づくもので、スマートフォン向けIDアプリ「欧州デジタルID(EUDI)ウォレット」を来年1月から利用可能にする。

EU内ではすでに多くの国でデジタルIDが導入されているが、各国独自のシステムで運用されており互換性は確保されていない。EUDIウォレットはこの課題を解決するためにEU全域での共通利用を可能にするものだ。

同ウォレットには国民IDカードのほか、運転免許証などの公的証明書、銀行カード、処方箋、学位証明など多様な情報を格納でき、スマホ一台で本人確認が完結する。行政手続き、銀行取引、オンライン契約、アルコール販売やSNSでの年齢確認など幅広い分野での活用が見込まれる。デジタル相のカルステン・ヴィルトベルガー氏は「生活が簡易になる」と利便性向上を強調した。

従来のプラスチックカードや紙の証明書と異なり、手続きに必要な情報のみを相手方に提供できるため、自己情報のコントロール権が強まる点もメリットとして挙げられる。物理的な証明書では記載された個人情報幅広く開示されてしまう問題があった。

政府は第1段階として来年1月から本人確認と証明機能の提供を開始し、将来的には乗車券の格納など機能を順次拡大する方針だ。利用は任意で、市民はアナログ方式でも引き続きサービスを利用できる。

(プレスリリース 5月20日付)

<https://bmds.bund.de/aktuelles/pressemitteilungen/detail/kabinett-beschliesst-gesetz-fuer-digitale-identitaeten>

ズベルバンク、生成AIに中国製半導体の採用検討 制裁下で中国依存が加速

ロシア最大手銀行ズベルバンクは、独自の生成AI(人工知能)モデル「ギガチャット(GigaChat)」に中国製半導体の採用を検討している。欧米の制裁により先端半導体の調達制限されるなか、中国への依存がさらに強まっている。

ロイター通信が20日に報じたところによると、プーチン大統領の訪中に同行したゲルマン・グレフ最高経営責任者(CEO)は国営テレビのインタビューで「ギガチャット向けに中国製マイクロチップを利用できることを期待している」と述べた。採用候補の具体的な製品名には言及しなかったが、市場では華為技術(Huawei)のAI半導体「Ascend 950」シリーズが有力視されている。ただ、同製品は中国国内でも需給が逼迫しており、バイトダンス、テンセント、アリババなど中国大手IT企業との争奪戦になる可能性が高い。

ロシアはAI分野で米中両国に大きく後れを取っており、防衛産業を含む先端分野では輸入電子機器への依存が続いている。中国は現在、ロシア最大のハイテク供給国となっている。ズベルバンクは電子機器メーカー「エレメント (Element)」への出資を通じて国内半導体・電子産業への関与を拡大しているが、少なくとも当面は中国製品への依存が続く見通しだ。

(tomshardware.com 5月20日付)

<https://www.tomshardware.com/tech-industry/artificial-intelligence/russias-sberbank-wants-chinese-chips-for-its-gigachat-ai>

独イオノスとQアントが戦略提携 フォトニック・プロセッサの商用化で欧州 AI 主権強化へ

ドイツのインターネット・クラウドプロバイダー、イオノス (IONOS) とディープテック企業のQアント (Q.ANT) は19日、戦略パートナーシップを締結した。フォトニック・プロセッサの商業利用を通じ、AI分野における欧州の技術主権強化を目指す。

フォトニック・プロセッサは光(光子)を用いて情報伝達や演算処理を行う次世代プロセッサで、従来の電子ベースのプロセッサと比べ処理速度が速く消費電力が少ない。AI利用が急拡大するなか、省エネ型の高性能演算基盤として注目を集めている。Qアントのミヒャエル・フェルチュCEOは「フォトニック・チップはまさにAI分野で従来型GPUに対する優位性を発揮できる」と述べた。

Qアントはシュツットガルトに本社を置く2018年設立のスタートアップで、フォトニック・プロセッサ「ネイティブ・プロセッシング・サーバー (NPS)」を開発した。すでにライプニッツ・スーパーコンピューティング・センター (LRZ) とユーリッヒ研究センターで稼働しており、製品は100%欧州域内で生産できる体制を整えている。

イオノスはQアント初の商業顧客としてNPSを自社データセンターに導入する。米テック大手が支配するAIインフラ市場に風穴を開けることを目指す。

(プレスリリース 5月19日付)

<https://www.ionos.de/newsroom/news/ionos-und-q-ant-vereinbaren-strategische-partnerschaft/>
番号：5888

独ヘルジングと OHB、宇宙監視・偵察システム開発の合併会社「KIRK」設立

ドイツの軍需スタートアップ、ヘルジング(Helsing)と宇宙技術企業OHBは19日、宇宙空間を基盤とする戦略的監視・偵察・目標捕捉システムを開発するための合併会社「KIRK」を設立すると発表した。両社はKIRKを通じ、ヘルジングが欧州企業と組成したコンソーシアムを主導する。

ウクライナ戦争では宇宙からの哨戒活動が現代戦において決定的な役割を果たすことが示されており、従来型の哨戒手段では対応に限界があることが改めて浮き彫りになった。

ヘルジングは昨年12月、同業のヘンゾルト(Hensoldt)およびノルウェーのコングスベルグ(Kongsberg)とコンソーシアムを設立した。情報・監視・目標捕捉(IST)用の衛星コンステレーションを2029年までに構築し、欧州の安全保障強化につなげる計画だ。宇宙ベースの監視・偵察システムとAIベースの目標捕捉システムを組み合わせることで、ほぼリアルタイムでの目標捕捉を実現する。敵の防空システムの射程外から攻撃する「スタンドオフ兵器」の運用も可能にする。衛星は「ソフトウェア定義型」とし、状況に応じた柔軟なアップデートに対応させる。

社名のKIRKは、ドイツ語で人工知能を意味する「キュンストリッヒェ・インテリゲンツ(KI)」と宇宙コンピテンスを意味する「ラウムファールト・コンピテンツ(RK)」の頭文字を組み合わせたものだ。

(プレスリリース 5月19日付)

<https://www.ohb.de/aktuelles/helsing-und-ohb-gruenden-joint-venture-kirk-fuer-taktische-aufklaerung-aus-dem-weltraum>

6. 日工会外需状況（5月）

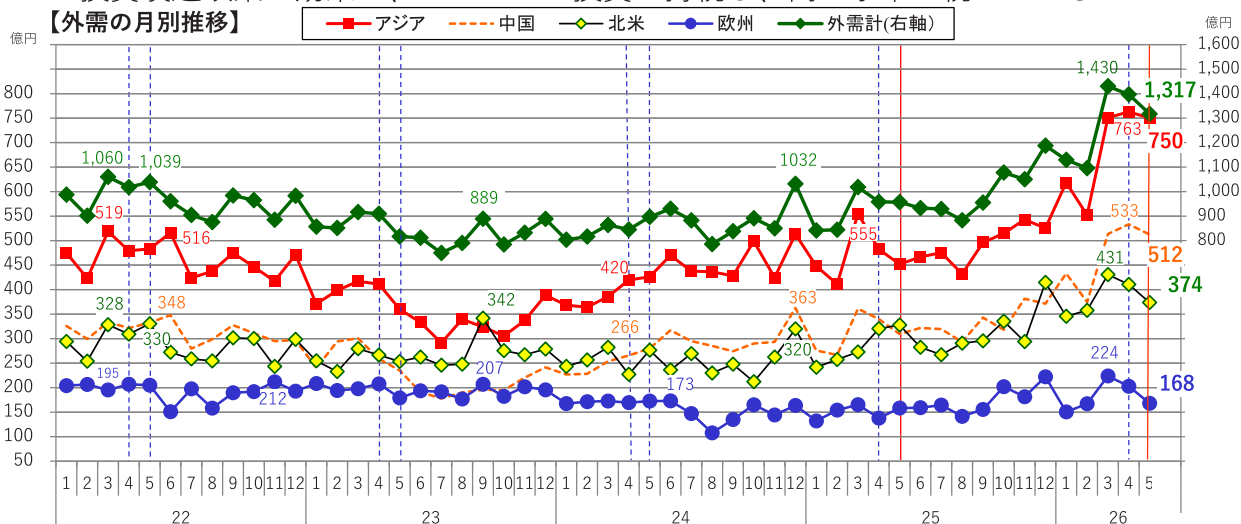
外需【5月分】

1,316.8億円（前月比 △ 5.7% 前年同月比 + 37.6%）

外需額

- ・前月比は2カ月連続減少も、前年同月比では20カ月連続の増加、先月に次ぐ、歴代3番目に高い水準となっている
- ・外需は、国際情勢が不透明な中、昨年12月以来回復の顕著な傾向が伺え、欧米の投資喚起政策の効果と、アジアでの投資が持続し、高い水準が続いている

【外需の月別推移】



出所：日本工作機械工業会

外需【5月分】

主要3極別受注

① アジア

アジア計は、3カ月連続 750億円超え、750.3億円

- 東アジアは、7カ月連続400億円超え、先月次ぐ歴代2位の581.6億円
- 中国は、7カ月連続350億円超え、歴代3位の512.5億円
- その他アジアは13カ月連続の100億円超え
- インドは前月比で2カ月連続大きく減少も、前年同月比では25%超の増加と堅調な推移

② 欧州

欧州計は、3カ月ぶりの200億円割れ

- ドイツは、3カ月ぶりの40億円割れ
- イタリアは、3カ月連続の25億円超え

③ 北米

北米計は、歴代4番目の373.6億円

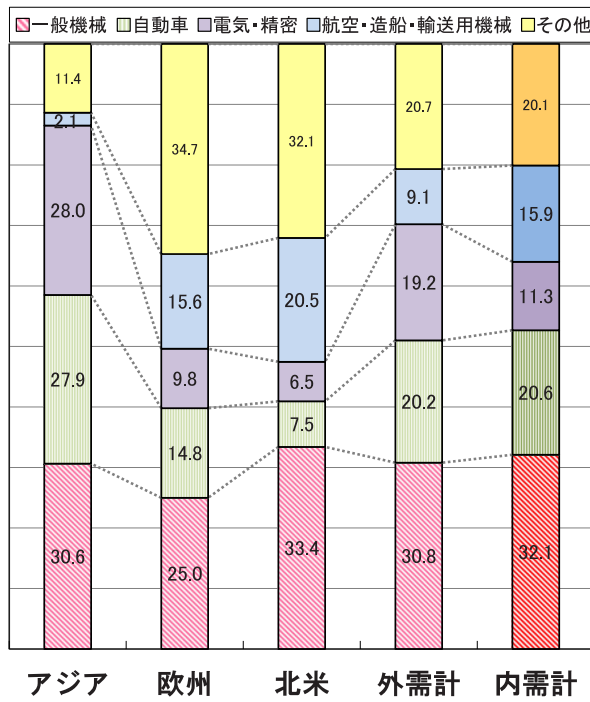
- アメリカは、前月比で減少も、300億円超えと高い水準で堅調な推移
- メキシコは、5カ月ぶりの30億円超え

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
アジア	750.3	△1.6 3カ月ぶり減少	+66.1 9カ月連続増加
東アジア	581.6	△3.8 3カ月ぶり減少	+66.3 9カ月連続増加
韓国	19.8	△47.3 2カ月ぶり減少	△17.6 3カ月ぶり減少
中国	512.5	△3.9 3カ月ぶり減少	+65.6 26カ月連続増加
その他アジア	168.7	+6.9 2カ月ぶり増加	+65.4 4カ月連続増加
インド	57.7	△24.6 2カ月連続減少	+27.5 4カ月連続増加
欧州	168.0	△17.2 2カ月連続減少	+6.1 11カ月連続増加
ドイツ	32.2	△27.9 4カ月ぶり減少	△11.2 10カ月ぶり減少
イタリア	30.8	+12.8 2カ月ぶり増加	△5.5 11カ月ぶり減少
北米	373.6	△9.0 2カ月連続減少	+13.9 10カ月連続増加
アメリカ	303.5	△15.2 2カ月連続減少	+4.7 16カ月連続増加
メキシコ	37.9	+90.7 2カ月連続増加	+49.1 3カ月ぶり増加

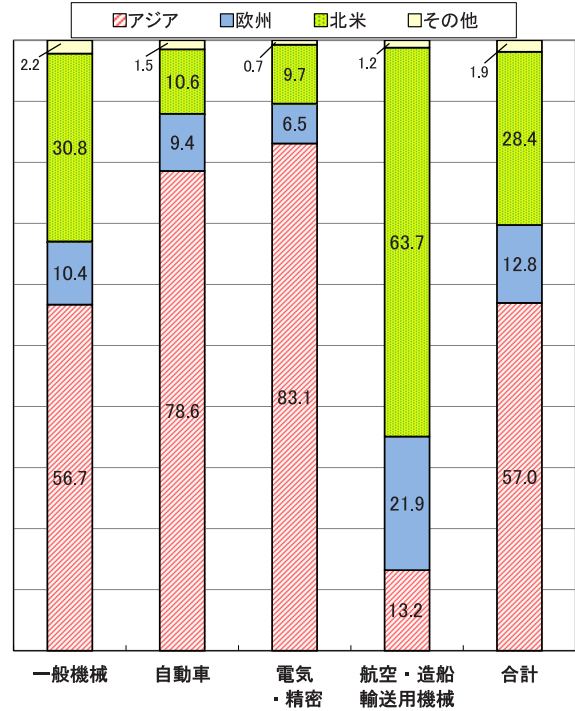
出所：日本工作機械工業会

外需【5月分】

主要3極別・業種別受注構成



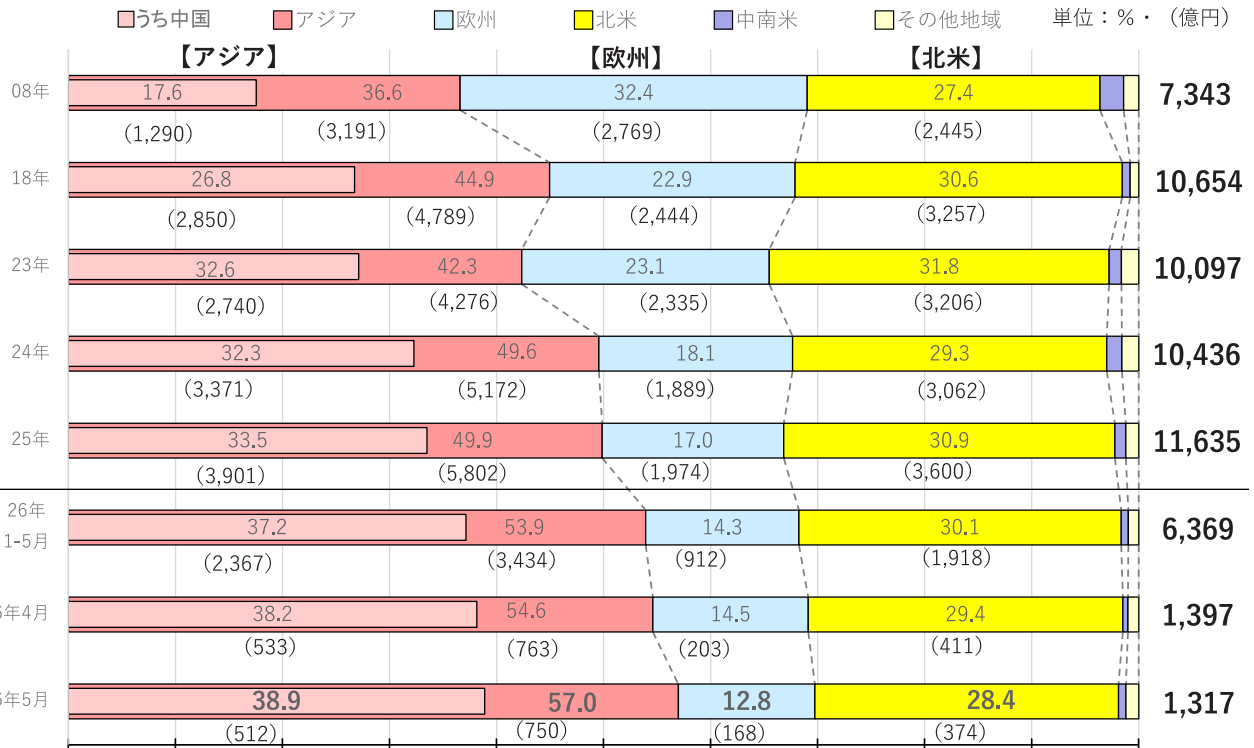
出所：日本工作機械工業会



出所：日本工作機械工業会

外需 地域別構成の推移

2カ月連続で北米比率が30%を割る状況



出所：日本工作機械工業会

お知らせ

世界が注目するインド市場へ

Invest India（インド政府）主催

日本企業へのインド合弁・技術提携・ 市場参入セミナー

— インド製造業の成長機会を掴む —

主催：Invest India（インド政府） / 特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー（JIBB）

半導体製造装置、工作機械、産業機械、ロボット、自動化機器、精密機器などの分野に携わる企業の皆様を対象としたセミナーです。ぜひご参加ください。

インドは世界有数の成長市場として注目を集めており、製造業分野においても大きな投資機会が広がっています。本セミナーでは、日本企業の皆様に向けて、インドの製造業投資環境、政府支援策、市場参入方法、提携機会について、実践的な情報をご紹介します。

開催概要

日時	2026年7月3日（金）13:30 受付開始 / 14:00 開演 ~ 17:00 閉会
会場	銀座ブロッサム（中央区立中央会館）7階 マーガレット 〒104-0061 東京都中央区銀座2-15-6 TEL：03-3542-8585 東京メトロ有楽町線「新富町駅」1番出口より徒歩1分 / 東京メトロ日比谷線・都営浅草線「東銀座駅」5番出口より徒歩6分
主催	Invest India（インド政府）、特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー（JIBB）
対象	半導体製造装置・工作機械・産業機械・ロボット・自動化機器・精密機器分野の企業等
定員	80名（先着順）
参加費	無料
使用言語	日本語・英語（英語講演は逐次通訳付き）
申込方法	下記の申込フォームよりお申し込みください https://forms.office.com/r/d7tMkBLaq8

プログラム

※プログラムの順序・内容は予定です。

- 受付・ネットワーキング
- 開会挨拶

登壇者：Invest India / JIBB

日印産業協力の現状と本セミナーの目的についてご紹介します。あわせて、日本の工業会の皆様よりご挨拶をいただく予定です。

■ セッション1 なぜ今インドなのか — インド製造業投資の最新動向

講演：Invest India

- インド製造業における投資機会
- 半導体産業エコシステムの発展と事業機会
- 工作機械および産業機械市場の成長性
- インド政府による支援制度および優遇政策
- 提携および合弁事業の可能性
- Invest India および JIBB による進出支援

■ セッション2 インド進出成功へのロードマップ — JIBBによる実践支援サービス

講演：JIBB

- 最適な進出候補地の選定
- 現地パートナーおよび合弁候補企業の探索
- 中央政府および州政府の補助金制度の活用
- 法規制およびコンプライアンス対応
- 許認可取得および各種申請支援
- 工場設立までのワンストップサポート
- 日本企業のインド進出事例紹介

■ セッション3 インド・ノイダでの半導体ビジネスセンター開設のご案内

講演：日印半導体コミッティ (JISC) / JIBB

- 日印半導体コミッティ (JISC) の機能紹介
- 日印半導体ビジネスセンターの開設について
- 365日常設展示ショーケースの活用方法

■ セッション4 パネルディスカッション・質疑応答

登壇者：Invest India / JIBB / 各業界団体代表

- 日本企業のインド進出における機会と課題
- 成功する日印パートナーシップの構築
- 今後の日印製造業協力の展望

■ ネットワーキングおよび個別相談会

Invest India および JIBB の担当者との個別相談を通じて、投資計画や市場参入戦略について具体的な意見交換を行っていただけます。

■ 閉会挨拶

登壇者：JIBB

日印製造業協力の新たな未来を、共に創りたいと考えております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

主催：Invest India (インド政府) / 特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー (JIBB)

お問い合わせ・お申し込み

運営：日印コンサルティング株式会社

安井 TEL：090-9325-3456 E-mail：yasui@ji-consulting.jp

橋倉 TEL：080-6516-4331 E-mail：trade@ji-consulting.jp

インド最大級工作機械展 IMTEX 2027



日本パビリオン
出展募集

日程: 2027年1月21日(木)~27日(金)

会場: バンガロール・国際展示場(BIEC)

締切間近!!
最終受付中
最終受付 7月31(金) 15:00

主催

会場



インド工作機械工業会

Indian Machine Tool
Manufacturers' Association



バンガロール国際展示センター



「メイク・イン・インド」

同時開催



インド首相
ナレンドラ・モディ

製造業の発展による経済成長が期待される、
これからのインド

「メイク・イン・インド(インドでモノづくりを)」
を新たな産業政策に掲げ、モディ首相は、製造業を
軸とした経済成長を実現しようとしています。政府が
規制緩和やインフラ整備に積極的に取り組んでいる
ことから、世界のメーカーがインドでの事業拡大に
動き始めています。



ツールテック展示会



デジタルマニュファクチャリング展示会

日本パビリオン共同運営



一般社団法人

日本工作機械工業会

日本代表事務局



特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

運営



日印コンサルティング株式会社

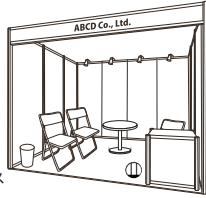
IMTEX 2027 (インド工作機械展) 出展のご案内



出展費用

A パッケージブース 365USD/m² (Min.15m²) +TAX

- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者バッジ (数量限定)
- ④ 受付カウンター1台
- ⑤ 会議用丸テーブル1台
- ⑥ 椅子3脚
- ⑦ スポットライト (100w) 4個
- ⑧ 電源1ヶ所
- ⑨ ゴミ箱1ヶ所
- ⑩ カーペット



A パッケージブース (最小15m²)

B ロースペース 330USD/m² (Min.36m²) +TAX

- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者バッジ (数量限定)



B ロースペース (土地のみ) (最小36m²)

C 1コーナー出展 1,500USD / 1コーナー + TAX

展示台とパネルがセットになった出展です。
パネル印刷費用は含まれています。
パネルデザイン費用と輸送費用は含まれておりません。

※ 上記A,B小間費用にはインド消費税18%が別途掛かります。
※ 電気料金は別途費用になります。
※ 角ブースは別途費用がかかります。
角ブースの割増分 (2面+20%/3面+30%/4面+50%) は25%OFFとなります。
* 運営管理費用15%

日本パビリオン

装飾

- 装飾業務
設計・施工・デザイン/レイアウト・企画運営進行管理・現場監督
- その他の関連業務
 - 制作物業務
パンフレット・フライヤー・製品カタログ/パネルデザイン/運営進行管理
 - 映像業務
VJ・ビデオ製作・ナレーション/吹き替え・レイアウト企画運営進行管理
 - 運営関連業務
セミナー・ノベルティ・コンパニオン・通訳・ナレーター・レセプションアレンジ

輸送

- 日本からの一括輸送を致します。
輸送通関申告費用/税関検査関係費用/税関出張費用/検査立会費用
カルネ手配費用/船積み諸経費/保税上屋入出庫費/保税上屋運送費
コンテナ積み込み費/コンテナ維持費/海上運賃/船積書類
及び通関書類/輸入地費用/維持費/貨物上屋入出庫費
コンテナ引取費/会場内運搬費/開梱費用/据付補助費
空箱コンテナヤード運送費/その他現場運営管理費
- * 展示会主催者の規定によりオフィシャルフォワードが指定されております。

出展までの日程フロー

出展申込最終受付中

出展ご検討中の方は仮申し込みをおすすめ致します

※ ノンオブリゲーションで仮押さえさせていただきます。
※ スペースが無くなり次第、出展募集は締め切らせて頂きます。

2026年



展示会コンサルティング及び実務サポートのご案内

- ① コンサルティング・リサーチ(売上に直結する)
- ② マーケティング・販売戦略・企画・運営・実働
- ③ プロモーション・PR (展示会事前PR・ミーティングセットアップ)
- ④ 展示会企画運営実行
- ⑤ セミナー・コンパレンス・学会企画運営実施
- ⑥ 貿易実務・ロジスティック・据付
- ⑦ 法人設立 (事務所/ショールーム/工場ロケーション提案等)
- ⑧ 人材サポート (高度技術スタッフ、技術指導員、エンジニア、SE等)

お申し込み・お問い合わせ

出展申込は右記QRコード、またはメールでご連絡ください。

[出展申込リンク](#)



日本代表事務局 運営

JIB 特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー | **JIC** 日印コンサルティング株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-13 溜池鈴木ビル3F

担当 安井 ☎ 090-9325-3456 橋倉 ☎ 080-6516-4331 ✉ info@ji-consulting.jp

HP <https://ji-consulting.jp>

一般社団法人 日本工作機械工業会

JMTBA

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館1階

担当 本多 ☎ 03-3434-3961 (代表)

✉ honda@jmtba.or.jp